

平成 27 年度
コミュニティソーシャルワーカー
活 動 報 告 書

平成 28 年 8 月
社会福祉法人仙台市社会福祉協議会

報告書発行の趣旨

社会福祉法人仙台市社会福祉協議会（以下、「本会」という。）では、第 2 期仙台市地域保健福祉計画及び第 3 次地域福祉活動計画に基づき、地域住民や関係者のネットワークによる福祉的課題の解決やより良い地域社会づくりに向けた活動を支援する専門職として「コミュニティソーシャルワーカー」（以下、「C S W」という。）を平成 25 年度より配置している。

本会各区事務所及び青葉区宮城支部事務所（以下、「区・支部事務所」という。）に計 11 名の C S W を配置し、住民主体を原則としながら、地域内の連携・協働による福祉活動の推進に取り組んだ。

東日本大震災から 5 年目となった本年度は、仙台市の震災復興計画の最終年度として、復興公営住宅の整備も概ね完了となる等、被災された方の住まいの再建が進んだ一方、復興公営住宅建設地域については、入居の時期により各地域におけるコミュニティの形成状況が大きく異なる状況もあり、本会 C S W 事業の展開においては、これらコミュニティの形成状況と地域の状況に応じた支援が必要とされた。

また、急速に進展する少子高齢社会における地域ニーズへの対応として、これまで活動を支援してきた復興公営住宅建設地域の支援者のネットワークを土台として、被災者のみならず、その地域の福祉課題解決のための協働の場へと展開した事例や地域包括支援センターと連携して住民主体の活動育成に取り組んだ事例など、地域の資源開発のための活動も行った。

本報告書は、平成 27 年度に C S W が取り組んだ支援活動や寄せられた相談などの状況を基に C S W が果たした役割について振り返ることを目的として発行する。併せて、地区社協、自治会・町内会、民生委員児童委員、N P O ・ボランティア団体、地域包括支援センター、区役所・支所など、様々な関係機関・団体に向けて C S W の活動状況を周知することで、活動への理解を深めていただきながら一層の連携強化を目指すものである。

目 次

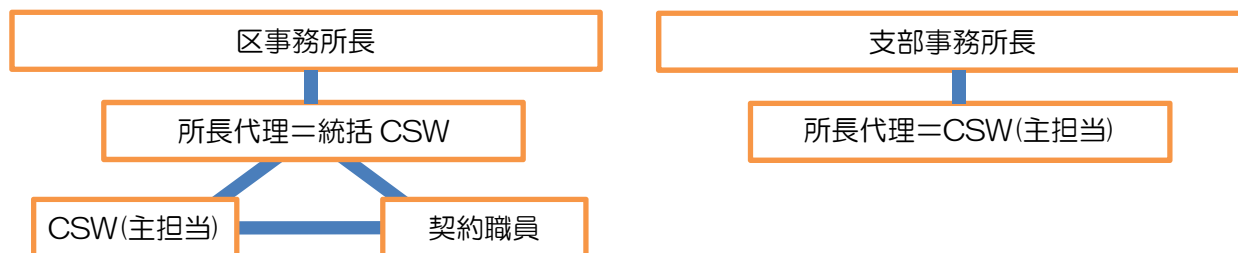
1. 平成 27 年度における C S W の取り組み	1
(1) 配置人数	
(2) 活動展開	
(3) 今後の活動展開に向けて	
〔参考①：平成 27 年度 C S W 活動事例紹介〕	
〔参考②：平成 27 年度復興公営住宅建設地域における支援状況一覧〕	
2. C S W の支援活動に係る本会の主催事業	28
(1) C S W の活動に関する支援	
(2) 地域住民・関係団体に向けた区・支部事務所の主な主催事業	
3. C S W の支援活動に係る主な連携相手	31
4. 相談・活動・支援内容の集計結果	32
(1) 相談・活動件数	
(2) 相談内容	
(3) 活動手法	
(4) 支援内容	

1. 平成 27 年度における C S W の取り組み

(1) 配置人数

本会の5区・1支部の事務所に合計で11名のC S W（正職員）を配置した。また、C S Wの補助職員（契約職員）を5区に配置した。

〔業務体制〕



(2) 活動展開

復興公営住宅の整備や防災集団移転先地での住宅建築が多く地域で完了する中、新たな住まいにおける生活不安、つながりの希薄化や孤立など福祉的な課題への取り組みの一層の推進が必要となることから、引き続き、復興公営住宅建設地域を重点支援地区に位置付けて活動を展開した。

重点的な取り組みにあたっては、新たに入居開始となる復興公営住宅等がある一方、入居後2年を経過する住宅があるなど、各地域におけるコミュニティの形成状況が異なることを踏まえ、これまでのC S Wの支援経験を活かしながら、それぞれの状況に適した見守り・支え合い体制づくりの支援及び必要なコーディネートを行うとともに、本会支えあいセンター事業による被災された方への個別的な支援と連携しながら、住民が主体となった継続的な見守り・支え合い活動が早期に展開できるよう体制づくりを支援した。

また、上記以外の地域においても、高齢となっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるための支援体制である地域包括ケアシステムの構築に向けて、インフォーマルな支援活動体制の充実が期待されている状況を踏まえ、本会がこれまで住民主体の地域福祉活動として推進してきた地区社会福祉協議会の活動が、安心した暮らしを続ける上で一層の役割を担うことができるよう、組織化支援をはじめ、小地域福祉ネットワーク活動等の充実に向けた支援を行うとともに、生活支援コーディネーターをはじめ関係機関等との連携推進に取り組んだ。

さらに、本事業による取り組みが3年目を迎え、復興公営住宅建設が進み、支援対象を広げていく中で、各地域の状況把握と特性に合わせた支援を継続的にかつ計画的に行うことができるよう、C S Wによる支援経過や支援の方向性について、まとめていくことで情報の蓄積と連続性のある支援環境の構築に取り組んだ。

(5) 今後の活動展開に向けて

平成25年度から開始した本事業は、復興公営住宅建設地域を重点支援地区として活動展開してきた。これまでの実践事例から、地域住民を主体とした見守り支え合い体制づくりが、自立的に活動展開されるようになるには、入居者相互のコミュニティが醸成され、キーパーソンの発掘、福祉課題の共有などを行いながら活動の基盤が整うことが必要であり、そのためには一定程度の時間が

必要となっている。このようなことから、次年度以降についても引き続き復興公営住宅建設地域の見守り・支え合い体制づくりへの支援を継続し、復興公営住宅も含めた地域住民が日常的な活動として見守り・支え合いができるよう支援を続ける。

また、平成 28 年度から 5 年間の計画である第 3 期仙台市地域保健福祉計画および第 4 次地域福祉活動計画の策定過程においても、地域福祉活動推進における課題の一つとして、複雑化、深刻化する地域課題に対し、地域の団体や専門機関をつなぎ、調整しながら、活動を支援する C S W の重要性が挙げられている。これまでの C S W による支援経験を地域福祉活動推進へと活かしていくため、実践事例を蓄積していくとともに、C S W として地域福祉活動を支援する人材の育成を大学等教育機関等と連携しながら取り組んでいく。

〔参考①：平成 27 年度 C S W 活動事例紹介〕

平成 27 年度に C S W が関わった地域の支援活動について、具体的な支援事例を活動事例シートとしてまとめた。

《支援事例》

- 事例 1 「町内会の支援から地域の支援へ～課題共有による地域協働体制づくり～」(青葉区)
- 事例 2 「地域包括支援センターとの連携による地域課題に取り組む担い手の育成」(青葉区)
- 事例 3 「支援者の動機を支え、新たなコミュニティづくりに活かす連携体制づくり」(青葉区宮城支部)
- 事例 4 「復興公営住宅の支援をきっかけに地域共通の課題に向けた福祉活動の体制強化」(宮城野区)
- 事例 5 「地区社会福祉協議会 復興公営住宅支援会議の開催」(若林区)
- 事例 6 「町内会・地区社協の連携による見守り活動者(福祉員)を育成する体制づくり」(太白区)
- 事例 7 「アンケートから把握した復興公営住宅入居者のニーズをきっかけに、地域の支援体制づくり」(泉区)

〔凡例〕

- ※「包括支援 C」は「地域包括支援センター」のこと。
- ※「支えあい C」は「支えあいセンター」のこと。
- ※「まち課」は仙台市各区役所まちづくり推進課のこと。
- ※「GH」はグループホームのこと

《事例 1》

町内会の支援から地域の支援へ

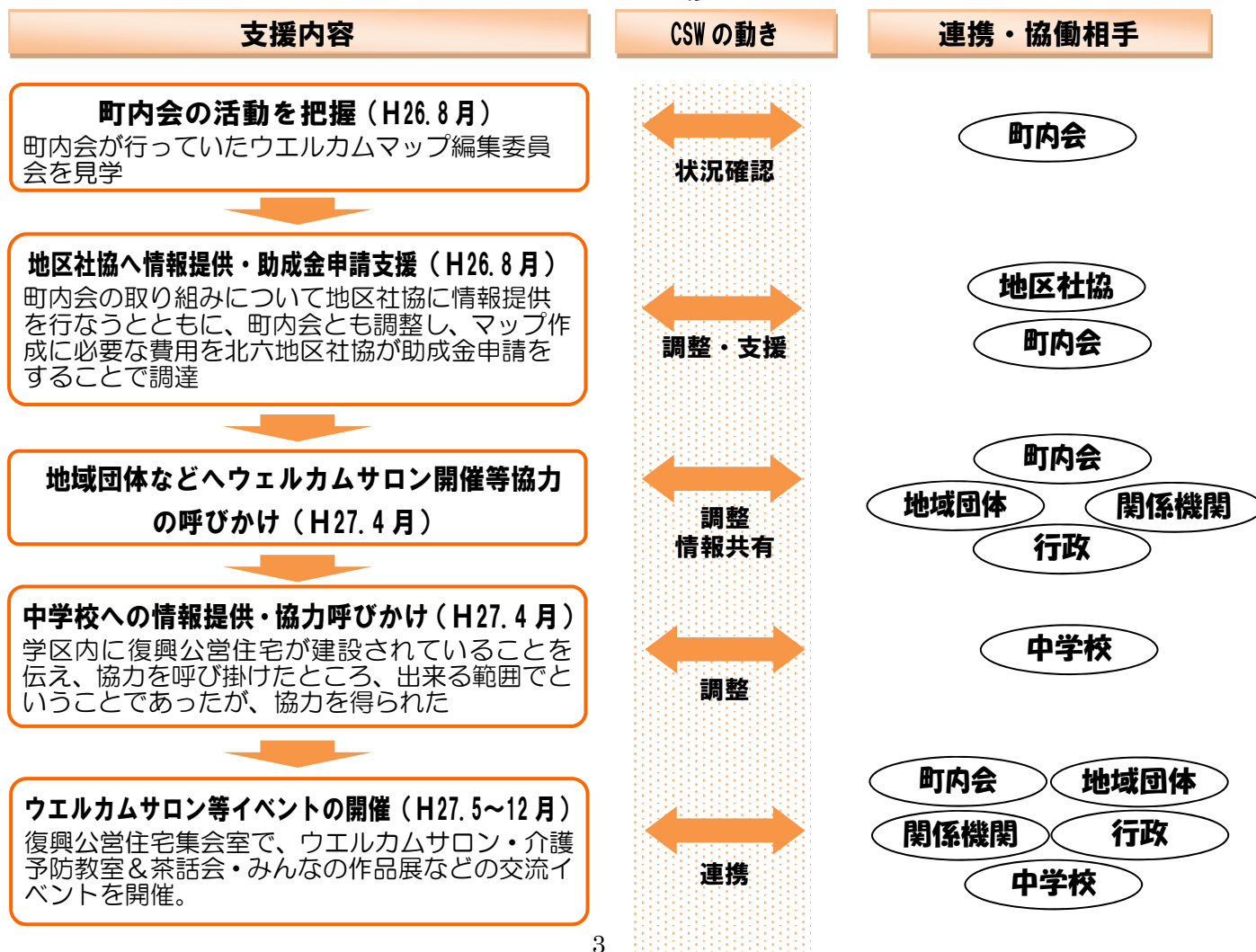
～課題共有による地域協働体制づくり～

青葉区

事例概要

事例内容	町内会だけで行っていた復興公営住宅入居者支援の取り組みに、地域団体や関係機関・行政・学校などに協力を呼びかけ、協働してイベントなどを開催した。
対象者	梅田町内会
支援者	地区社協・地区民児協・連合町内会・市民センター・地域包括支援センター・中学校・行政・支えあいセンター
支援目標	復興公営住宅の支援を町内会だけでなく、北六地区全体として取り組んでもらうことを目指す。

支援内容



支援結果

- 町内会と共に、ウエルカムサロンは地域諸団体や関係機関と、介護予防教室＆茶話会は地域包括支援センターと、みんなの作品展は地区社協や支えあいセンターあおばと連携して開催した。



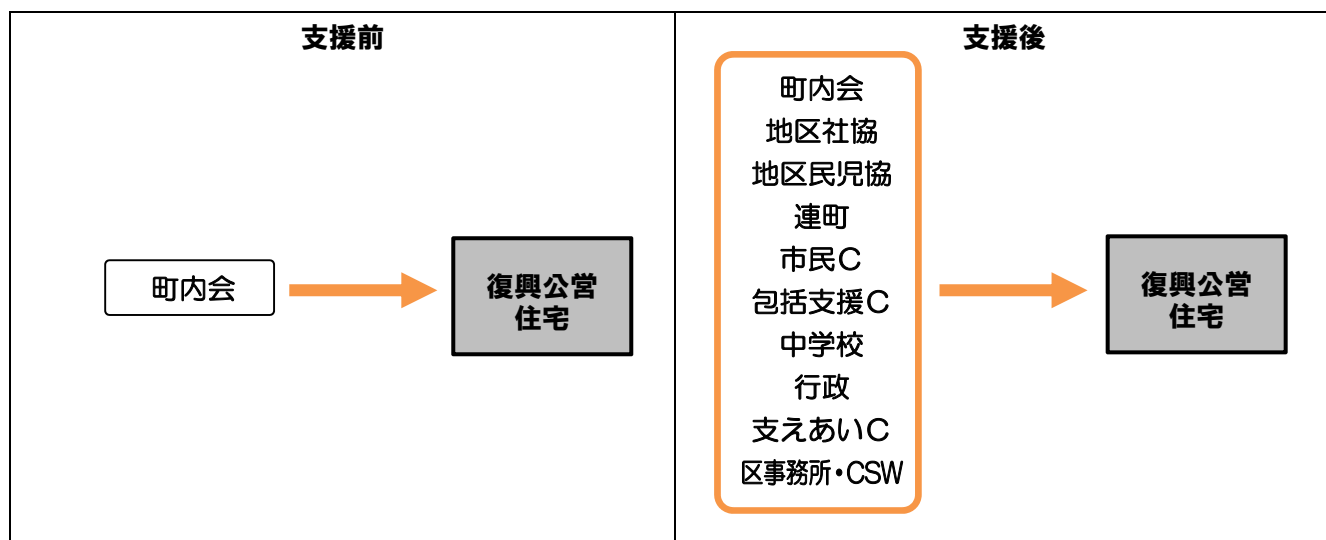
↑ 支援準備会の様子



↑ 介護予防教室＆茶話会の様子

- 地域団体や関係機関と協力して町内会をバックアップすることで、町内会が抱いていた負担感を軽減することが出来た。
- 中学校と町内会の新たなつながりを作ることが出来た。
- 市民センターによる主に復興公営住宅入居者を対象にしたイベントの市民企画が始まり、被災した住民・町内会・支えあいセンターあおば・社協区事務所がメンバーに加わった。

エコマップ（支援の関係図）



支援のポイント

- 地域の様々な主体が資源としてつながる際に、その主体の得意な分野を把握しながら、役割や担ってほしいことをC S Wが伝えながら調整することで、それぞれの主体性を活かした。
- 復興公営住宅への支援を地域全体で取り組めるよう結ぶことを意識した。
- 地区社協活動の活性化にもつながるように地区社協が担う役割に対する支援を行った。
- 学校にも協力を呼びかけ、地域と学校のつながりづくりを働きかけた。

C S Wの振り返り

- 一町内会では負担とを感じる活動に対し様々な団体や関係機関をつなぐことにより、活動に積極性を持ってもらえるようになったと思う。協働した取り組みによる成功体験は地域の次の活動への大きな原動力となると感じた。
- 中学校の参加については、区ボランティアセンターへ中学校から講話の依頼があったことがきっかけで、スムーズにつながることができた。他部署との連携や情報共有が大事だと改めて感じた。

《事例 2》

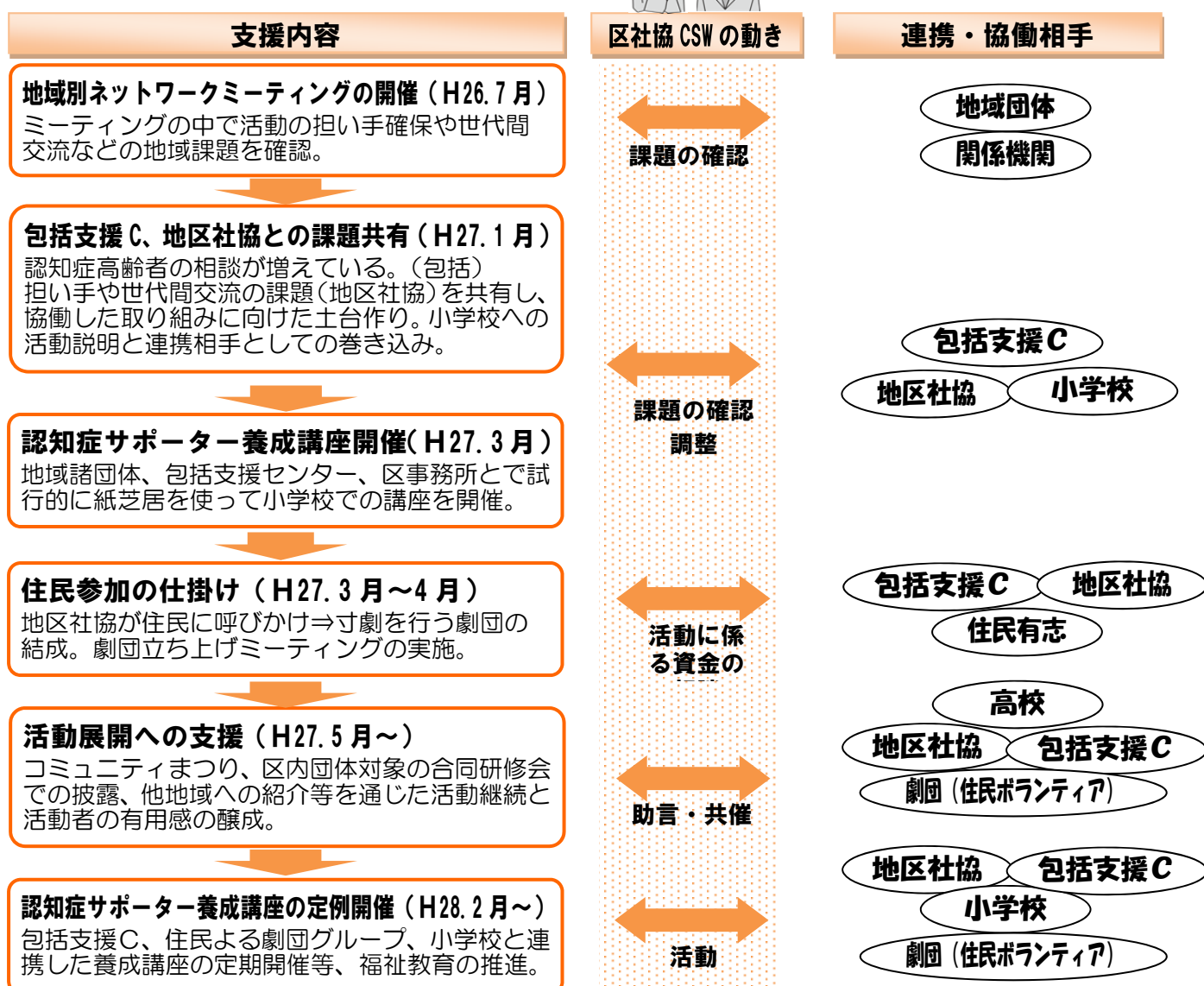
地域包括支援センターとの連携による 地域課題に取り組む担い手の育成

青葉区

事例概要

事例内容	地区社協と地域包括支援センターが抱えていた課題を結び付け、社協区事務所と三者で小学生を対象とした認知症サポーター養成講座を開催した。
対 象 者	小松島小学校 4 学年
支 援 者	地区社協・地区民児協等地域団体の有志や地域住民、地域包括支援センター、社協区事務所
支援目標	認知症の啓発活動を行いながら、地域の課題となっている担い手の確保や世代間交流に向けた取り組みを推進していく。

支援内容



支援結果

- 講座開催のため、地区社協が地域内に協力を呼び掛けたところ、様々な団体から有志が集まり、また、団体に所属しない若い年代の方も協力して、新たなつながりができた。
- 地域では以前から「地域で子供たちを育てる」という考えを持ち、小学校を会場にしたイベントを開くなど世代間交流を進めてきたが、一時的な交流に留まっていた。今回、小学校で講座を開いたことで、学校と一緒に継続的に福祉教育を進めていくことにつながった。
- 劇団を結成し、稽古をする中で、演劇指導や学生の出演などで東北高校の協力をもらえることになり、新たな支援者とのつながりが出来た。

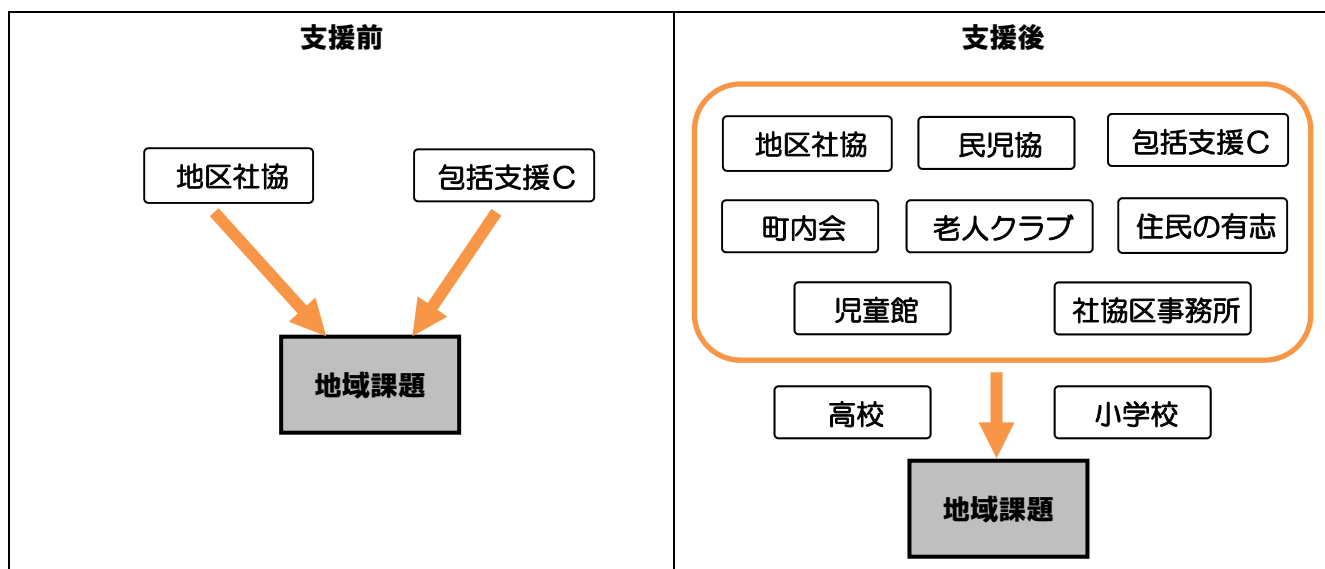


↑ 講座の様子



↑ 小道具作成の様子

エコマップ（支援の関係図）



支援のポイント

- 「劇団」という具体的な活動と目的を設定することによって、様々な主体が関わり、連携しやすい環境となった。
- 地区社協役員と地域包括支援センターだけでなく、地域団体や住民の協力を得ながら、最終的には地域の課題解決（担い手確保）などにつながるよう進めた。
- 講座開催を次年度以降も続けられるよう、継続的な取り組みとして学校に働きかけた。
- 取り組みを広く広報し、他地区の活動のヒントとしての波及効果も意識した。

C S W の振り返り

- 今回、地域課題の解決に向けた取り組みを行なうことで、今までなかなか協働の接点を見つげづかった近隣の高校とつながりを作ることもできた。今後は劇だけでなく、地域清掃等でも高校と協働したいと地域では考えており、新しい連携相手と次の取り組みに向けての足掛かりとすることができた。

《事例 3》

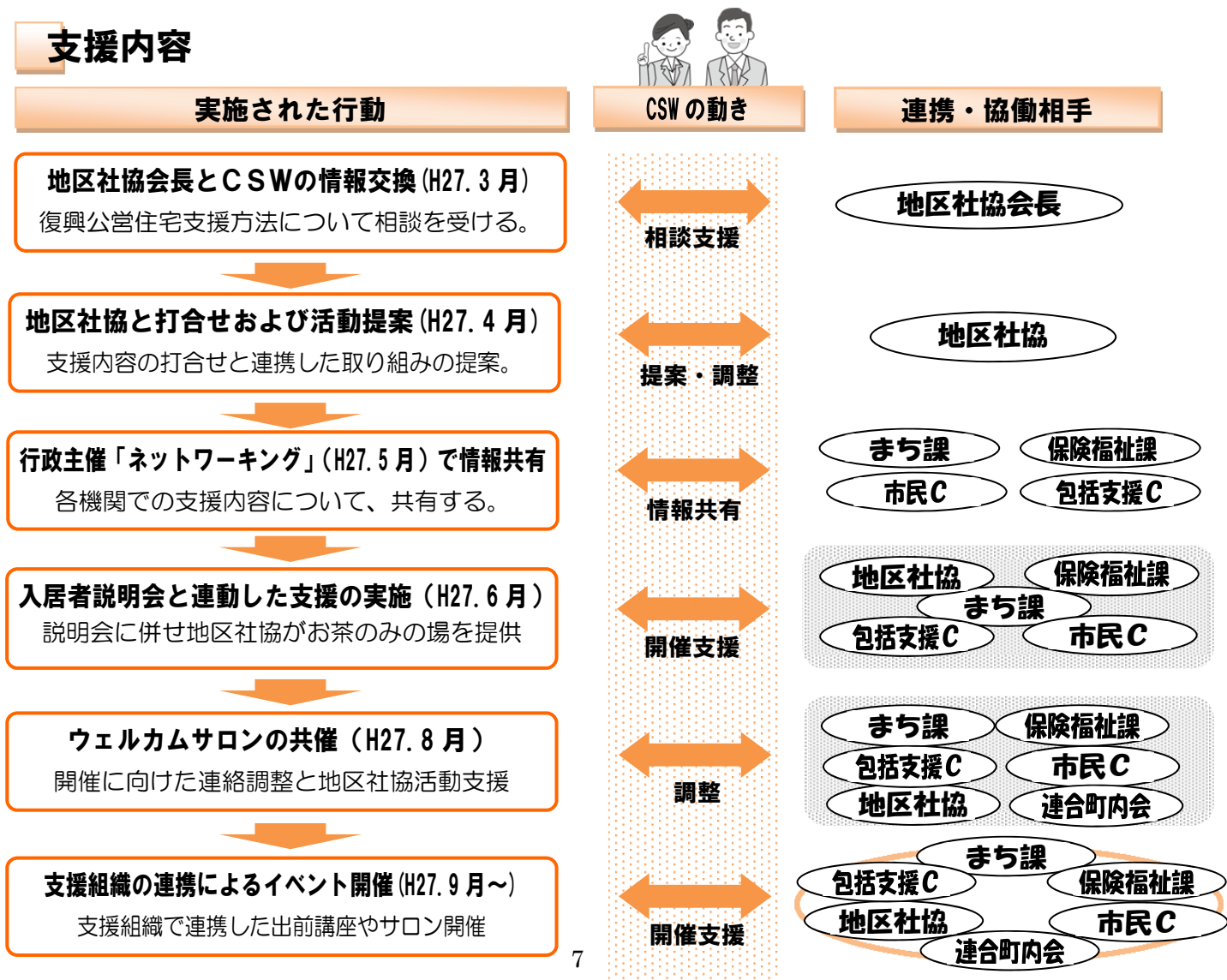
支援者の動機を支え、新たなコミュニティづくりに 活かす連携体制づくり

青葉区宮城支部

事例概要

事例内容	地区社協が行う復興公営住宅入居者支援の活動と各機関が行う支援活動の連携した取り組み実施にむけた調整とイベント開催支援
支援対象	復興公営住宅入居者（整備戸数112戸・平成27年7月入居開始） および地区社協など支援活動主体
主な支援者	地区社協、区役所（まちづくり推進課・保健福祉課）、包括支援C、市民C、 連合町内会、CSW
支援目標	地区社協が主体となった復興公営住宅への支援活動を関係機関による支援と連携して展開できる体制づくりを目指す。

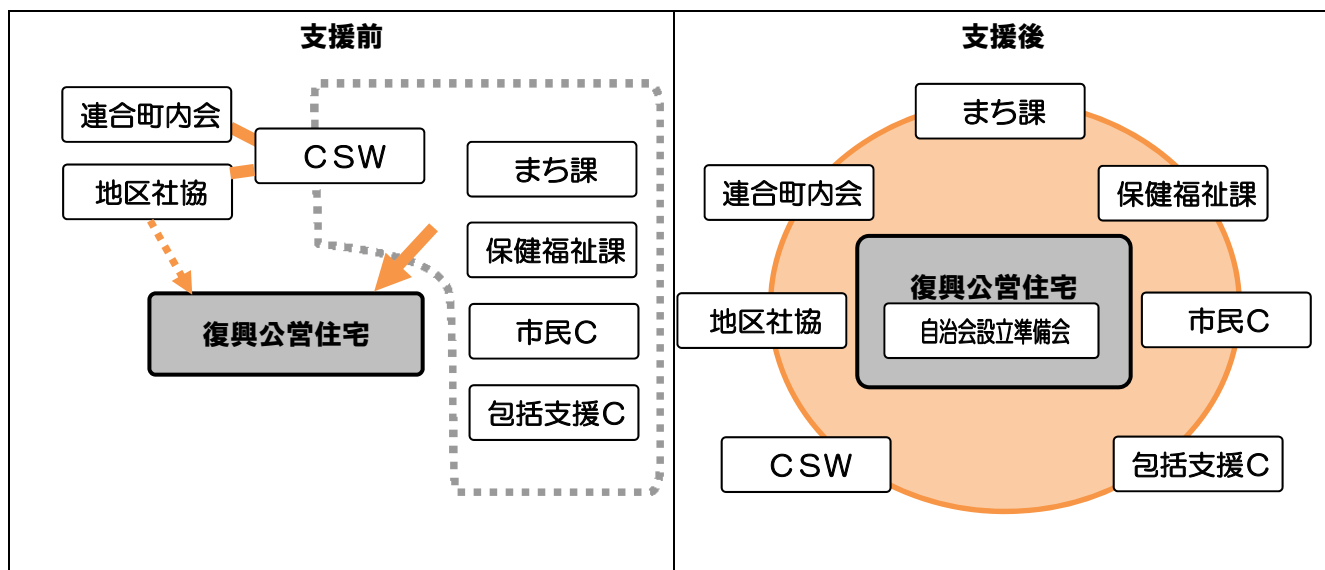
支援内容



支援結果

- 入居者説明会という住民のコミュニティ形成前の段階から、既存地域の住民組織である地区社協とともに茶饮みの場を設け、入居者へ歓迎の気持ちとして表したことにより、その後のサロン活動の円滑な開催や復興公営住宅住民の自治会設立準備会との連携などもスムーズに行うことができた。
- 関係機関とのネットワーキングの中で、地区社協の役割や可能な支援などを共有したことにより、連携のための基盤につながった。

エコマップ（支援の関係図）



支援のポイント

- 元々、支援に対して前向きであった地区社協の気持ちを大切に、活動が具体化するように関係機関との調整を行い、地域で主体的に取り組めるように支援した。
- 今後、住民同士の見守り・支え合い活動の核となる自治組織を良好な関係で設立できるよう、入居者同士で顔なじみの関係構築を当初の目的とした。

CSWの振り返り

- 関係機関と連携してウェルカムサロンを開催したことをきっかけに、以降も連携したサロン開催ができた。
- 地区社協が熱心に行ったことで、活発な支援活動となったが、地域の普段の活動に加えた活動であったことから、活動の中心となった方の疲労感も感じられた。今後は自治会設立準備会のメンバー等の入居者自身が運営の中心となれるよう支援していくという、方向性の確認を支援者とともにしていく必要があると感じる。

＜事例 4＞

復興公営住宅の支援をきっかけに 地域共通の課題に向けた福祉活動の体制強化

宮城野区

事例概要

事例内容	復興公営住宅に対する支援者ネットワークづくりへの支援をきっかけに、日常的な地域資源化への展開を支援
対象者	復興公営住宅入居者 グループホーム入居者 地域住民
主な支援者	地区社協・民児協・町内会・地域包括C・グループホーム・市民C・
支援目標	復興公営住宅への支援を行うとともに、地区社協を含めた継続的な住民主体の福祉活動への展開・強化を図る。

支援内容

実施された行動

町内会長へのアプローチ（H26. 9 月）

復興公営住宅建設地域の町内会へ支援のあり方等について、意向伺いと働き掛け

意見交換会及び支援者ネットワーク体制づくり支援（H26. 11 月～）

関係機関との調整や他地区の先行事例などの情報を提供しながら、運営を支援。

支援者協働イベント開催支援（H27. 6 月～）

関係機関との調整や助成金申請などの活動支援。NPO団体主催サロンへの協力

支援者ネットワークの新たな活動展開へむけた支援（H27. 12 月）

日常的な支援への展開へ向けて、地域包括Cから認知症カフェの情報提供。地域課題への取り組みとして、住民による検討を支える。

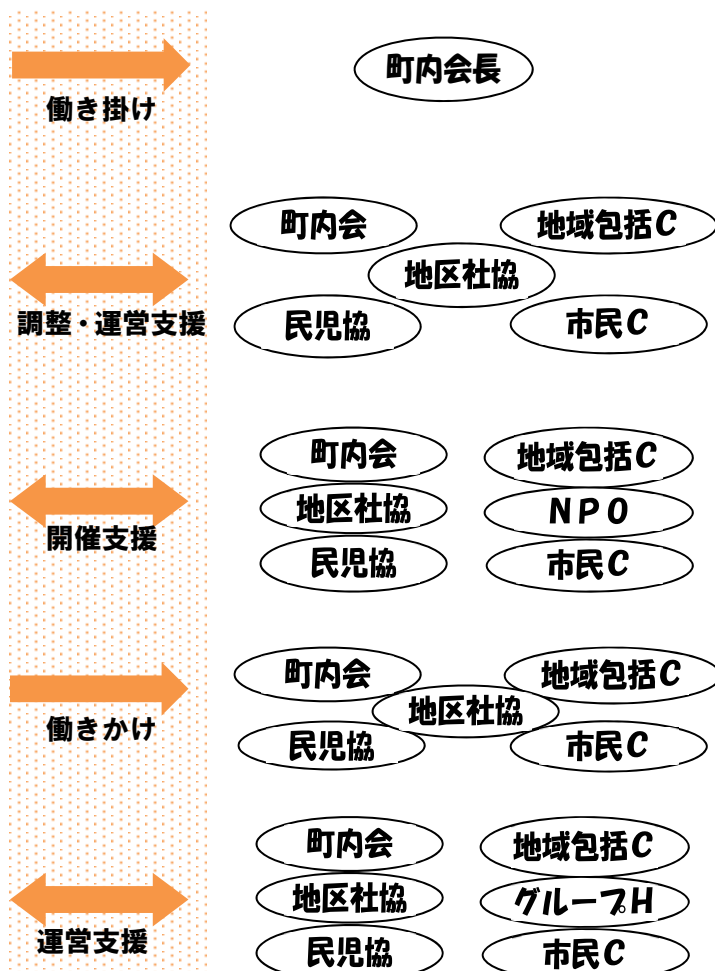
協働による認知症カフェの定期開催（H28. 3 月）

保険手続き等、運営に関する相談支援。



CSW の動き

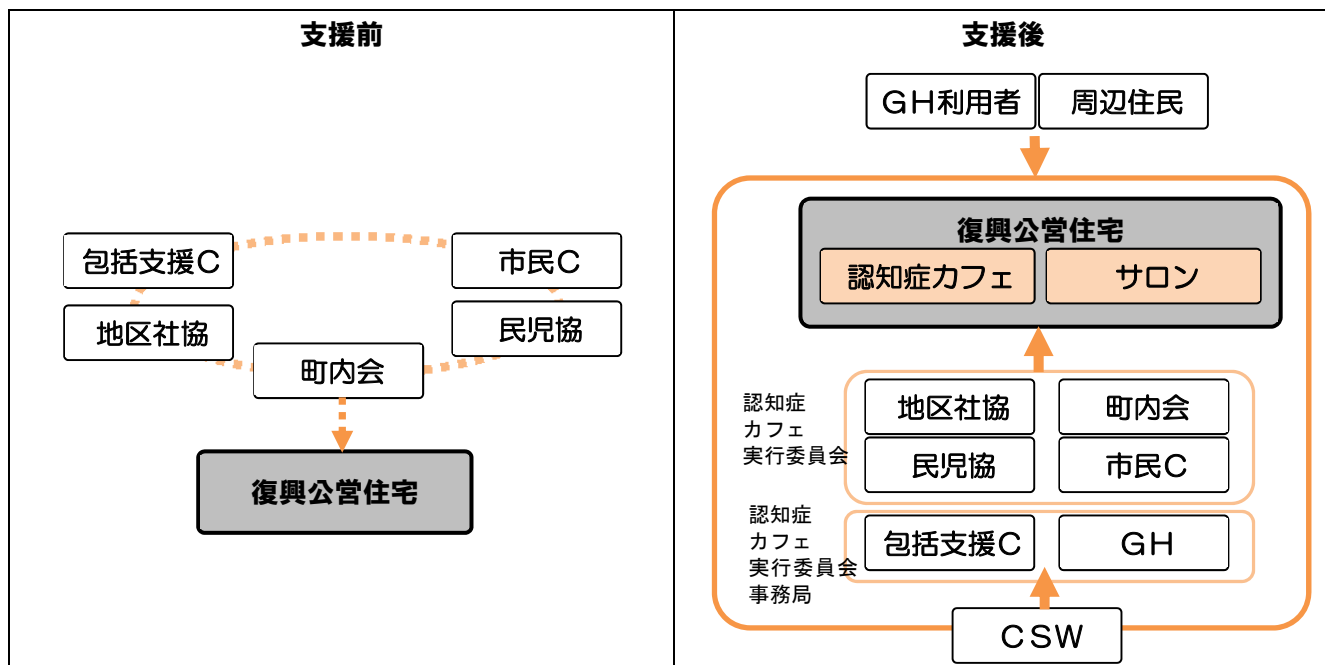
連携・協働相手



支援結果

- 周辺地域住民、入居住民、各関係機関の間で顔の見える関係をつくることができた。
- 支援者のネットワークを土台とした協働の取り組みをすることにより、各団体が協力して取り組むことの力を、それぞれの団体が実感することができた。
- ひとつの目標を定め、連携した取り組みができるよう支えたことにより、地区社協が役割を担うことにつながり、活動の活性化が図られた。
- 包括支援Cと協力しながら、被災者支援から、被災者だけでなく、地域共通の課題に視野を広げるための働き掛けを続ける中で、支援者のネットワーク組織が形を変え、復興公営住宅集会所を利用した「認知症カフェ」の定期開催へと展開することにつながった。
- 認知症カフェの開催場所を復興公営住宅集会所にしたことにより、地域住民との相互交流の場としての資源になった。

エコマップ（支援の関係図）



支援のポイント

- 支援スタート時は、すでに実績がある他の区の例を提示し、具体のイメージが沸くよう、心がけた。
- 地区社協の主体性が発揮されることを支えるため、会合を重ねる中で、徐々に運営の主体を地区社協へ引継いでいき、CSWは各関係機関との調整をおこなった。
- 支援者のネットワークづくりにおける地区社協の運営相談等に対し、地区社協の組織強化にもつながることを見据えながら支援した。

CSWの振り返り

- 支援者のネットワークづくりにおいて様々なアイデアが生まれる空気が会にあったことは、協働による取り組みやその後の認知症カフェ開催への発展等に大きく影響を及ぼしていたと感じる。

《事例 5》

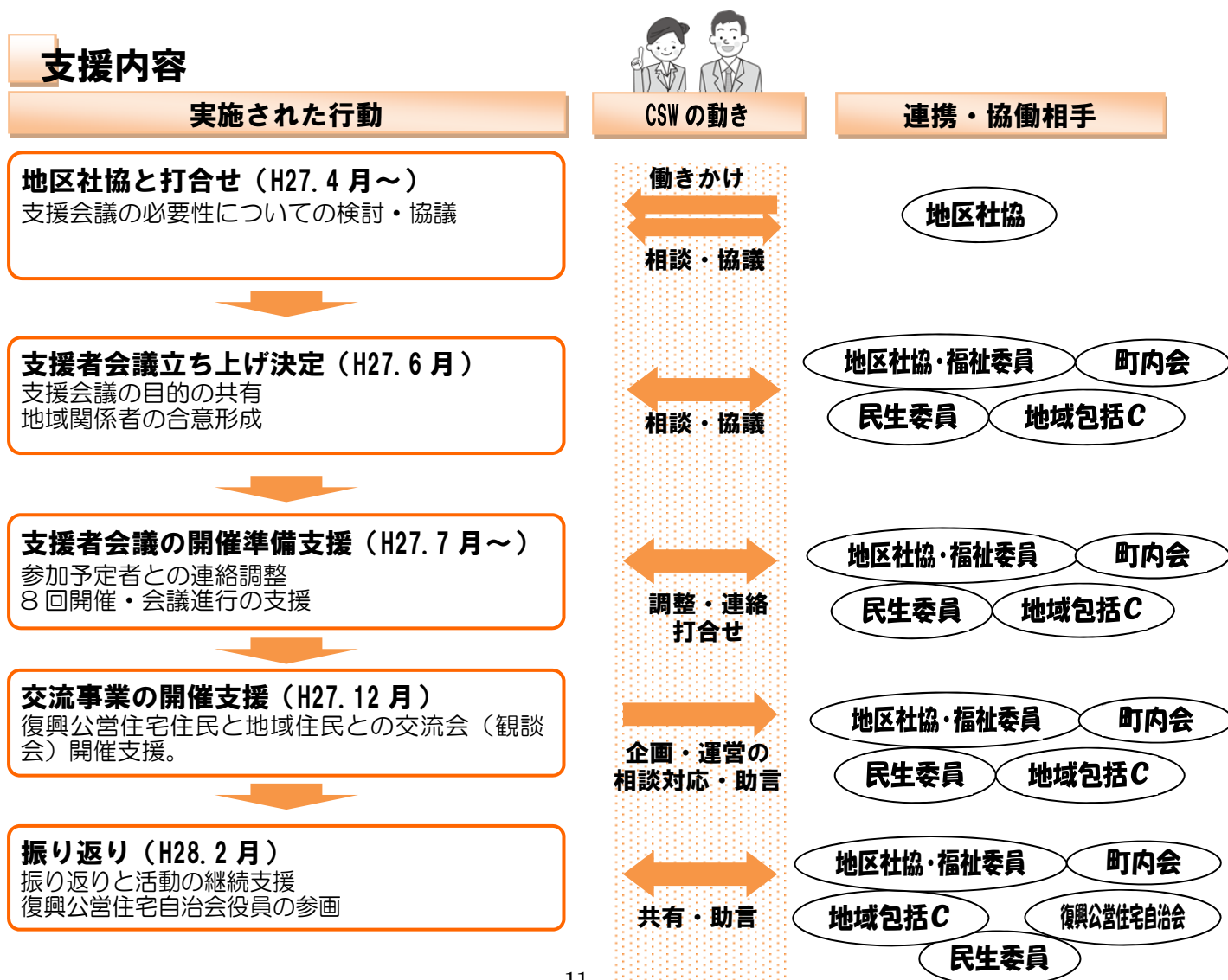
「地区社会福祉協議会 復興住宅支援会議」の開催

若林区

事例概要

事例内容	「地域内で入居が始まる復興公営住宅への支援について、地域でできることを検討したい。」「復興公営住宅支援者の会」のようなものを立ち上げたい。」という地区社協のニーズに対して、CSW が助言、会議の運営協力等を行った。
対象者	復興公営住宅の入居者
主な支援者	地区社協・町内会・民生委員・地域包括C
支援目標	地域住民が自ら主体的に考え、行動できるようになること。

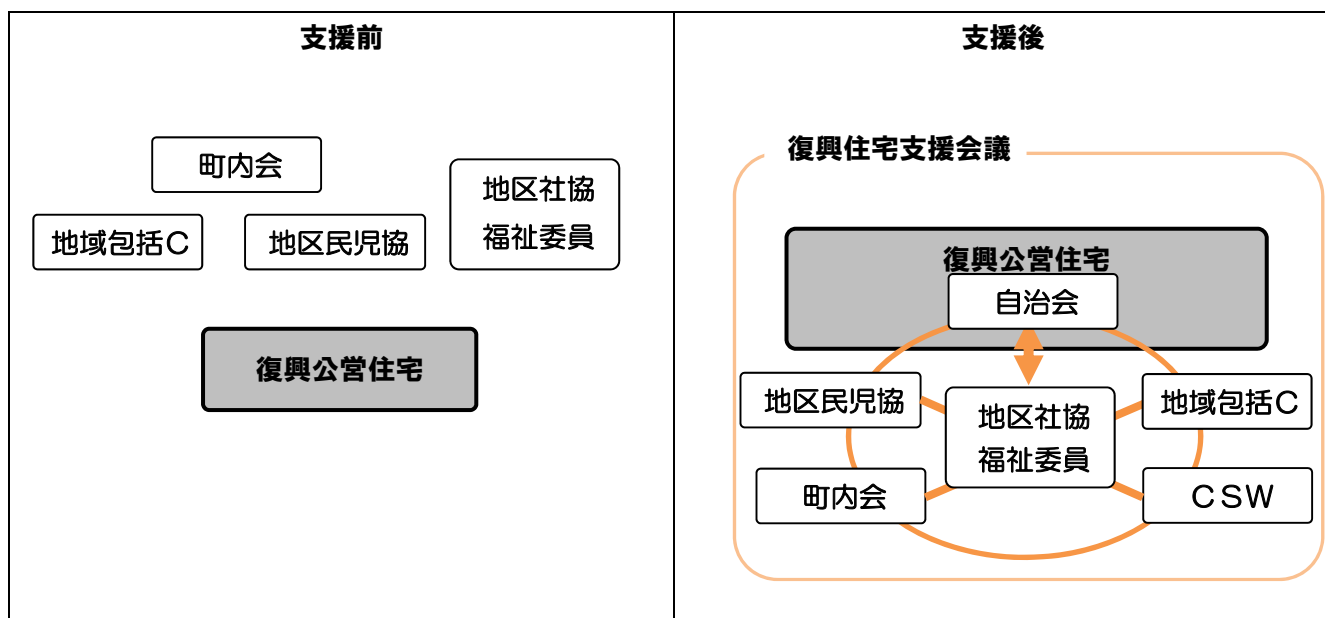
支援内容



支援結果

- 支援会議の立ち上げについて、自ら必要性を感じ、立ち上げるに至った。
- 立ち上げ後、CSW に寄りかかりすぎずに、話し合いのテーマ設定等、主体的な運営ができるようになった。
- 地区社協主催の交流イベント「観談会」を開催し、150 名が参加した。
- 地区民児協のモデル事業と相互に情報交換をしながら支援会議を進めることができ、地区社協と地区民児協の連携を円滑に進めることができた。
- 会議を重ねるにつれて、支援者同士のネットワーク、さらには支援者と復興公営住宅自治会とのネットワークができた。

エコマップ（支援の関係図）



支援のポイント

- 「住民主体の原則」に徹し、CSW が主導して会議を進行しないように努めた。（毎回、打合せを入念に行い、丸投げをすることなく、地区社協が会議を進めやすくなるように配慮した。）
- イベント開催時には、あくまでも地区社協が主体的に運営するように助言をした。
- 初めは「地域で歓迎している」ことを示すために、復興公営住宅ではなく、地域の集会所等で歓迎行事を行っていたが、地域の集会所等は復興公営住宅から離れているため参加者が多くなかったことから、復興公営住宅集会所でイベント等を行うように助言した。
- 会議には毎回 CSW が出席し、会議の進行をバックアップした。

CSWの振り返り

- 地区社協役員同士で話し合いを繰り返し、今回の「支援会議」の必要性についてじっくり摺合せを行っていただいたことが奏功したのか、円滑に「支援会議」を立ち上げることができた。円滑に立ち上がったことから、その後の運営も地区社協主体の会議になったと思われる。

<<事例 6>>

町内会・地区社協の連携による見守り活動者（福祉員）を育成する体制づくり

太白区

事例概要

事例内容	地域の要援護者の見守りを実施する活動者の必要性の周知と町内会と連携した活動者育成の支援
対象者	地区社協、町内会
支援者	地区社協、連合町内会、地区民児協
支援目標	見守りを実施する活動者の必要性を連合町内会・単位町内会に理解してもらい、町内会圏域ごとの活動者の設置を目指す。 また、活動者育成後は、地区社協として活動者のサポート体制を構築する。

支援内容



対象者に対する支援内容

区社協 CSW の動き

連携・協働相手

活動者育成について話し合いを開始（H26. 10 月）
見守り機能の状況把握、他地区の状況との比較、見守り活動者像の共有、町内会への働きかける方法の検討

情報交換
課題の整理

民生委員 地区社協

活動者の役割・育成方法の検討（H27. 7 月）
地区社協による見守り活動の調査、活動案の検討

調整

地区社協

町内会の会議・研修等で説明（H27. 9～11 月）
小ネット活動やその活動者の育成について説明、町内会ごとの事情を把握

説明・調整
情報交換

地区社協 民生委員
連合町内会

活動の詳細について方針決定（H27. 12 月）
見守り活動内容、民生委員との連携の調整

調整

地区社協 民生委員
連合町内会

活動後の支援体制の検討（H28. 1 月）
活動報告様式の決定、地区社協のサポート体制の検討

提案・調整

地区社協

福祉員委嘱状交付式（H28. 1 月）
説明内容等の調整

支援・調整

地区社協 連合町内会
民生委員 包括支援 C

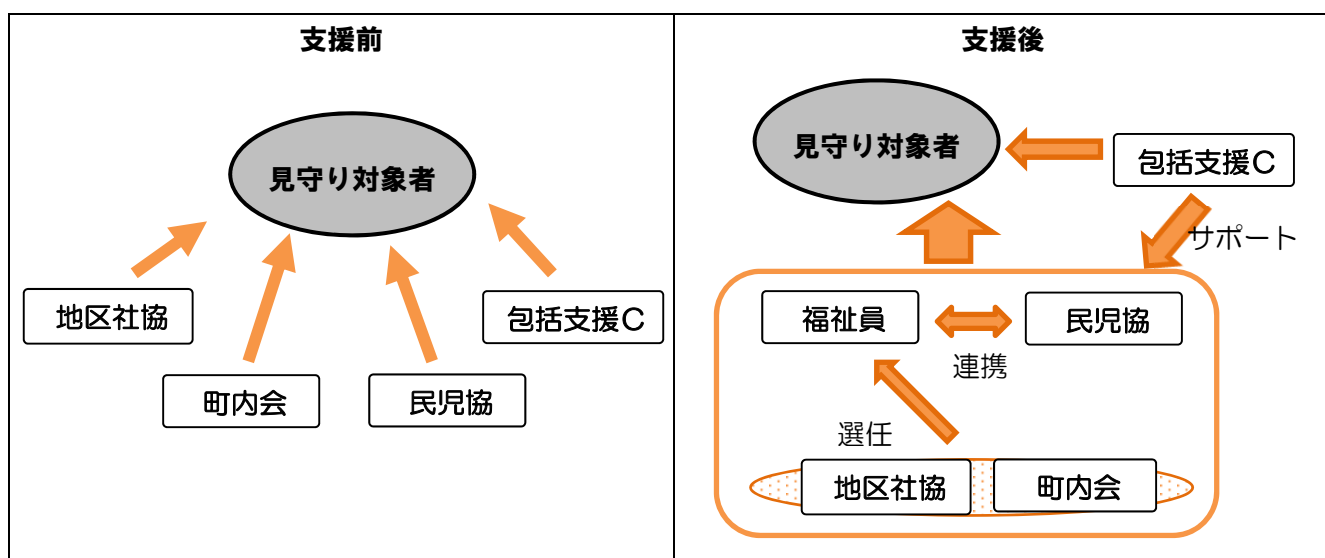
支援結果

- 継続的な見守り活動ができるよう町内会ごとのの実態にあわせた活動者を育成することができた。
- 「福祉員」は地区社協会長が委嘱し、地区社協圏域で方針を決め推進する体制をとることで、活動の手法や頻度等に一定の水準をもたせることができた。



福祉員発足式の様子

エコマップ（支援の関係図）



支援のポイント

- 地域の意向、活動の継続を重視し、無理のない形で取り組める仕組みを意識した。
- サロン活動等を並行して支援することで、地区社協との信頼関係を築きながら進めた。
- 福祉員を設置した後の地区社協のサポート体制の構築について、福祉員の活動が始まる前から地区社協に意識してもらえよう働きかけた。

CSWの振り返り

- 地区社協と人材育成の必要性を共有しながら、町内会に対する地区社協活動の重要性の説明も支援したことで、活動に対する理解と協力体制を構築することができた。

今後は以下の点が支援のポイントと考える。

- ・地区社協が活動者の不安や活動の課題等を受け止め、活動者をサポートする体制づくりへの支援
- ・福祉員と民生委員児童委員との活動の中で連携事例を蓄積し、お互いが活動しやすい連携の力たちを導きだすための支援
- ・定期的な福祉員の会議が地域課題の気づきの場としても機能し、それを地区社協の今後の活動につなげていくための支援

《事例 7》

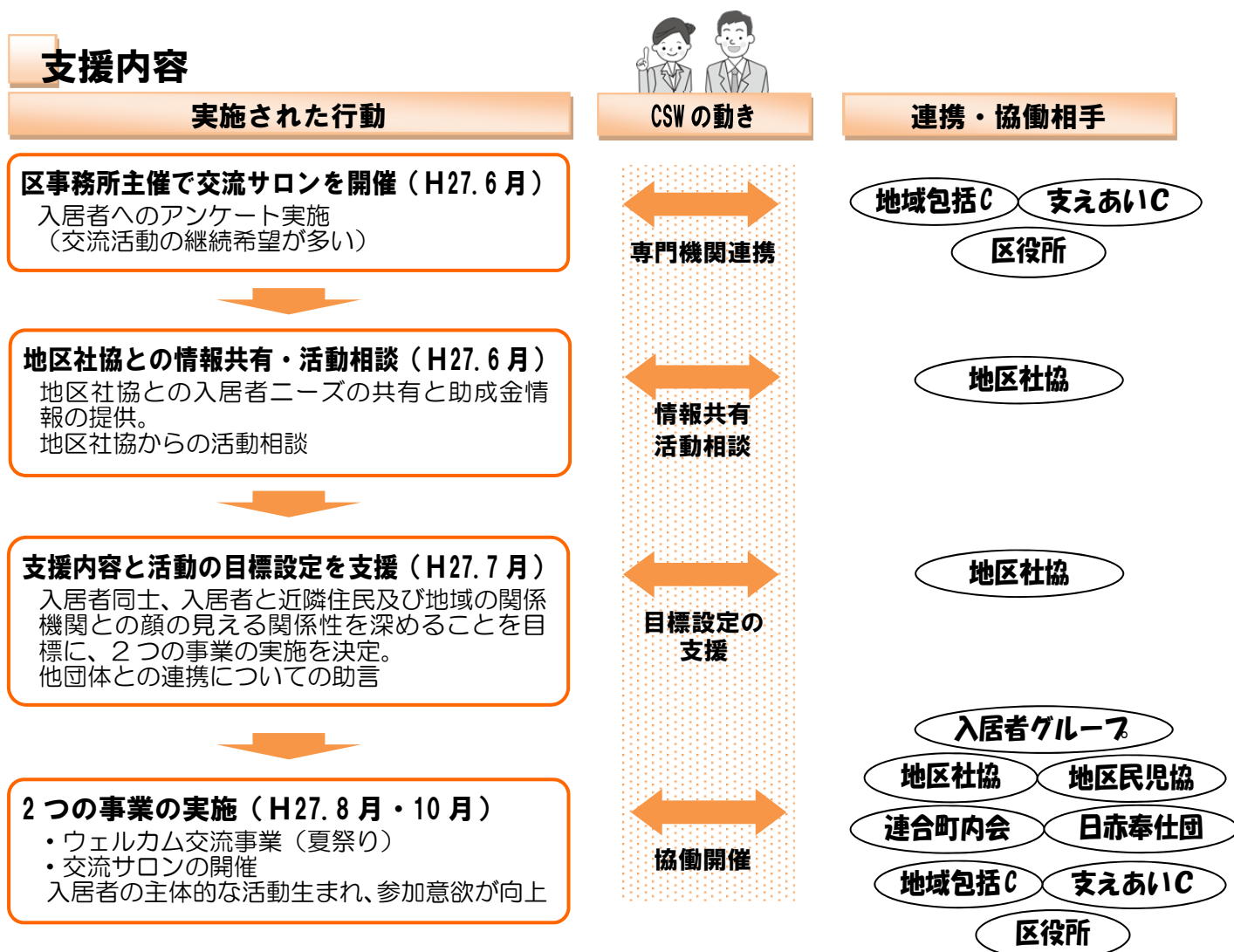
アンケートから把握した復興公営住宅入居者のニーズをきっかけに、地域の支援体制づくり

泉区

事例概要

事例内容	アンケート結果の共有から復興公営住宅における交流サロンの開催支援
対象者	復興公営住宅入居者、周辺住民
主な支援者	民生委員、地区社協、連合町内会、区役所、地域包括C、支えあいC、区事務所 CSW
支援目標	入居者同士、入居者と近隣住民及び地域の関係機関との顔の見える関係性を深める

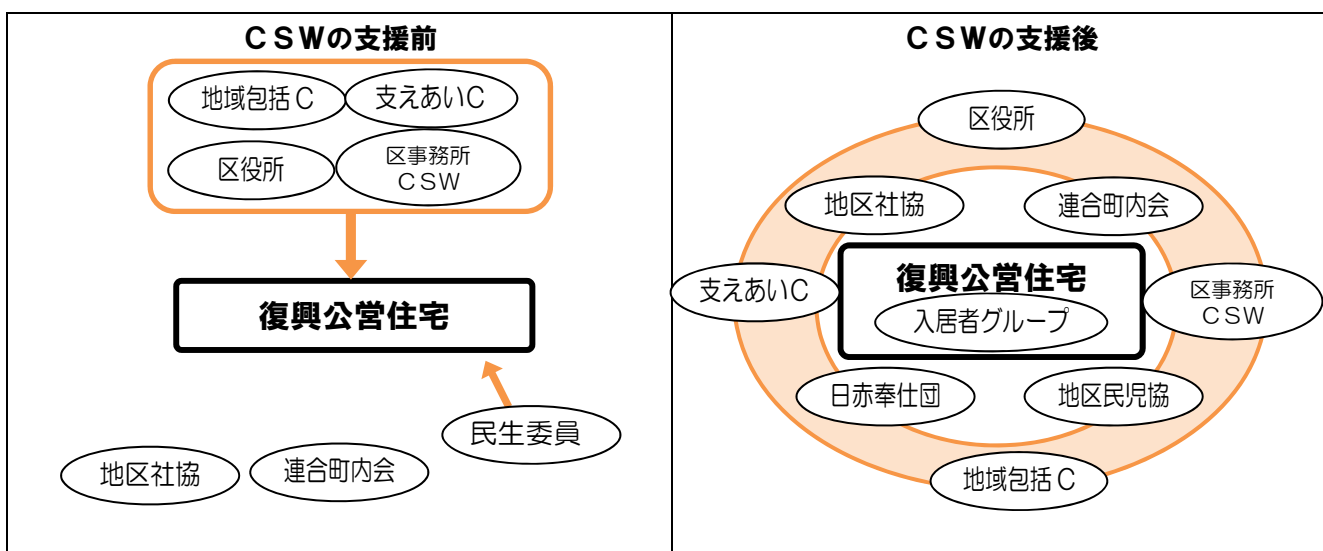
支援内容



支援結果

- 周辺町内会役員、民生委員、地域のボランティア等と入居者の顔合わせをすることができた。
- 入居者同士がサロンを通して顔見知りになり、声を掛け合ってサロンに足を運ぶようになった。
- 入居者の主体的な活動(すずめ踊り)につながり、コミュニティへの関心と参加意欲が高まった。
- 入居者に今後の主体的な福祉活動を検討してもらうきっかけとなった。
- 他団体との共催を意識して、活動支援をしたことにより、関係機関とのつながりも強まり、支援体制が構築された。
- 地区社協の支援動機を支え、企画から実施までの過程を支えることで、主体的な取り組みを経験し、支援力の底上げにつながった。

エコマップ（支援の関係図）



支援のポイント

- 区内唯一の復興公営住宅であり、周辺地域は近年の開発とともに住民が増加している地域のため、日常的な福祉活動が十分に展開されている地域ではなかったことから、先に専門機関の連携による交流活動を実践し、入居者ニーズを共有する形で、地域住民の活動の動機づけをはかった。
- 住民主体の活動を支援する上で、活動内容を地区社協が自ら決めていくことを支えた。
- 今後の当該地域の日常的な福祉活動の展開のため、基盤となるよう連携体制づくりを意識した。

C S W の振り返り

- 当初目標とした、入居者や自治会設立準備会の主体的な福祉活動展開に向けた、入居者、地域活動者、関係機関との協力した取り組みへの意識づけはできた。
- 地区社協への地域福祉活動についての喚起啓発につながったので、今後、さらなる活動へつながられるよう支援していく。

〔参考②：平成 27 年度復興公営住宅建設地域における支援状況一覧〕

区	団地名	入居開始	整備戸数	地区社協	町内会形成等の状況	支援者会議等の状況	H27年度ウェルカムイベント・サロン等の開催状況	H27年度 CSW の主な支援活動	H27年度その他現状・課題等
青葉区	北六	H25.4	12	八幡	北六市営住宅の一部を復興公営住宅としており、市営住宅の自治会に加入。		奇数月の第3月曜日にサロンを開催。	・入居開始から3年目となり、近隣地域への関わりと同様、地区社協や民生委員等、地域の福祉活動者に対し必要に応じて相談支援を行っている。	復興公営住宅となってから数年経ち、入居世帯の家族状況も変化し、新たな課題が発見されるようになった。担当民生委員や自治会長が見守りを行っている。
	上原	H26.7	27	愛子	上原市営住宅の一部を復興公営住宅としており、市営住宅の自治会に加入。	支援者会議を組織	<ul style="list-style-type: none"> ・地域主催のサロンは定期的に開催。 ・9号棟（被災者入居）は、自治会副会長中心に月1回の清掃活動後に交流。 ・9号棟お茶会(5/30)、バーベキュー大会(9/13、11/8)。 ・愛子地区社協主催サロン(6/14、10/18、12/19、2/15)。 ・自治会・地区社協・宮城支部3者による反省会(3/11) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区社協主催サロン等開催支援(5月～10月、12月) ・支えあいセンター訪問世帯に関して、担当民生委員と支えあいセンターが情報共有する場づくり支援(12月) 	地区社協支援3年目。28年度からは自治会主体のサロン活動へ移行するよう支援している。ただし、役員・班長は一年交代であることや、活動資金面など、単独でサロンを企画していけるか不安もある。
	霊屋下	H27.2	33	片平	町内会主催の顔合わせ会を開催。31世帯が既存町内会に加入。	住民勉強会「霊屋下復興公営住宅を考える会」を組織（当初のメンバーは町内会・片平まちづくり会会長と、アドバイザーとして東北工大准教授だったが、現在は他に、子ども会・市民センター・区役所・包括・CSWも参加）	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会が主体となって戸別訪問（入居者への挨拶）や町内会サロンへの参加呼びかけ、町内会役員と入居者の顔合わせ会等を行ってきた。 ・社協主催・町内会共催で入居者や町内住民から手作り作品を募集し、「みんなの作品展」を11月に開催。 ・1/31、片平まちづくり会主催（町内会共催、考える会メンバー協力）で、霊屋下第二住宅と合同のウェルカムサロンを開催。 ・世話人から、入居者に集会室を開放して自由に話やお茶飲みが出来る様にしたいとの希望が出て、週3回（日、水、金 10:00～16:00）集会室を開放している。 ・フリーマーケットを開催したいという希望も世話人から出て、町内会の協力を得て、集会室で開催。 ・3/26 菜園つくりクワ入れ式 	<ul style="list-style-type: none"> ・霊屋下復興公営住宅を考える会運営支援（前年度から継続） ・入居者及び周辺住民向けサロン開催に関する物資入手支援(6月) ・入居者説明会開催支援(8月) ・五橋包括C主催 ペット問題に関する入居者対象個別ケア会議参加(9月) ・支えあいセンター「みんなの作品展」開催支援(9月～10月) ・ウェルカムパーティー実行委員会活動支援(1月) ・住宅内での孤独死発生を機に、住民から相談あり「住民間の見守り活動体制づくり」に対する助言(2月) 	地域住民により入居者が抱える課題が発見され、本人や家族・支援者が集まりケア会議が開かれたケースがあった。

区	団地名	入居開始	整備戸数	地区社協	町内会形成等の状況	支援者会議等の状況	H27年度ウェルカムイベント・サロン等の開催状況	H27年度 CSW の主な支援活動	H27年度その他現状・課題等
青葉区	梅田町	H27.3	66	北六	梅田町町内会で説明会を開催。63世帯入居中 39世帯が町内会に加入。6班体制で班長を出している。(1年交代)	支援者会議を組織(社協区事務所が呼びかけ、地区社協・民児協・連町・市民センター・包括・行政・支えあいセンターが参加)	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェルカムサロンや包括の介護予防教室に合わせた茶話会、福沢市民センター市民企画による様々なイベント、社協主催の「みんなの作品展」などを開催。 ・「みんなの作品展」で出展した方の作品が福沢市民センター職員の目に留まり、出展者が講師となって市民センターの出張講座が集会室で開催されることになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェルカムサロン開催支援(4月～5月) ・交流サロン開催支援(7月) ・介護予防教室・茶話会開催支援(8月) ・福沢市民センター市民企画会議主催 地域交流コンサート&茶話会、芋煮会等開催支援(9月～10月) ・支えあいセンター「みんなの作品展」開催支援(12月) 	行動力があるキーパーソンが入居者の中から見つかっておらず、入居者主体の活動がまだ行えていない状況。
	通町	H27.4	142	通町	3月6日通町市営住宅自治会設立総会	支援準備会を組織(まち課が呼びかけ、連町・地区社協・民児協・市民センター・包括・社協区事務所が参加)	<ul style="list-style-type: none"> ・支援準備会主催のウェルカムサロン、まち課と入居者の代表(自治会設立準備会のメンバー)によるイベント、包括による介護予防教室などを開催。 ・また、東北教区災害ボラセンより、長野教区のボランティアが復興公営住宅で信州そばの振る舞いを青葉区ボランティアセンターが調整、12月に信州そば提供&ふれあい交流会開催。 ・地区社協主催のウェルカムサロン(9月から隔月で1月まで開催)が住宅集会室で開催。今後は従来同様、通町コミセンで開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通町復興公営住宅支援準備会及び支援者会議参加(前年度から継続) ・ウェルカムサロン開催支援(8月～1月) ・西本願寺長野教区 信州そば振る舞い&交流会開催支援(11月～12月) 	準備会世話役の入居者から、毎日午後、入居者に集会室を開放して自由に話やお茶飲みが出来る様なサロンを開きたいとの希望があり、世話人が集会室の管理し、開催していたが、管理が難しくなり、現在入居者によるサロンは行っていない。 地区社協より、28年度の社協会費についてどのように取り扱えばよいのかとの相談があった。他区の復興公営住宅の社協会費納入状況について情報提供する。
	小田原	H27.4	58	東六	3月20日自治会設立総会 58世帯中 37世帯が加入	地域団体(地区社協・民児協)が支援	<ul style="list-style-type: none"> ・常盤木学園高校の協力をもらい、地域団体主催のウェルカムサロンを開催。 ・11月には地区民児協主催の入居者・地域住民を対象としたコンサート開催。 ・その他、地区社協、民児協、日赤、連町主催のふれあいサロンを集会室で隔月開催中。 ・自治会設立総会があり、地区社協会長が出席。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェルカムサロン開催支援(4月～5月) ・入居者支援イベント(芋煮会・コンサート)広報に関する支えあいセンターとの調整支援(9月) 	準備会世話役の入居者は、地域団体に主催してもらっているサロンを、今後は自分たちが開催しなければいけないという意識は持っているが、まだ開催できるまでに至っていない。

区	団地名	入居開始	整備戸数	地区社協	町内会形成等の状況	支援者会議等の状況	H27年度ウェルカムイベント・サロン等の開催状況	H27年度CSWの主な支援活動	H27年度その他現状・課題等
青葉区	落合	H27.7	112	落合栗生	単独町内会設立の方向性	支援者会議を組織	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者説明会後地域主催のお茶会(6/17) ・地区社協主催のウェルカムサロン(8/29)とその後のサロン(9/27,11/8) ・市民センターと地区社協共催の出前講座(9/6、10/18、12/20、1/17)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・落合栗生地区ネットワーキング参加〔支援関係者によるサロン開催、助成金申請等の支援〕(4月～) ・入居者対象サロン等(ウェルカムサロン・ゴスペルコンサート等)開催支援(8月～) ・落合復興公営住宅自治会世話人会活動支援(2月～) 	イベント参加者同士、まとまりが出来つつあり、自治会設立準備会も出来た。準備会としては、全世帯の自治会加入が目標。入居者同士の近隣トラブルの他、ペットの飼い方が問題に挙がっている。
	霊屋下第二	H27.9	88	片平	町内会主催の顔合わせ会を開催し、38世帯が既存町内会に加入。1月中旬には45世帯が加入。1月に班長選出の会合を開く。	霊屋下住宅と同様(住民勉強会「霊屋下復興公営住宅を考える会」を組織)	<ul style="list-style-type: none"> ・霊屋下住宅同様、町内会が主体となって戸別訪問(入居者への挨拶)や町内会サロンへの参加呼びかけ、町内会役員と入居者の顔合わせ会等を行ってきた。 ・町内会で住宅の敷地内にあるシンボルツリーのいちょうを利用した「いちょうとふれあいの会」を開催。「考える会」のメンバーも協力。 ・1/31、片平まちづくり会主催(町内会共催、考える会メンバー協力)で霊屋下住宅と合同のウェルカムサロンを開催。 ・社協主催の「みんなの作品展」会場は霊屋下住宅集会室で開催。作品を出展した入居者もいた。 	(※霊屋下復興公営住宅の項目を一部再掲) <ul style="list-style-type: none"> ・霊屋下復興公営住宅を考える会運営支援(5月～) ・入居者及び周辺住民向けサロン開催に関する物資入手支援(6月) ・入居者説明会開催支援(8月) ・支えあいセンター「みんなの作品展」開催支援(9月～10月) ・ウェルカムパーティー実行委員会活動支援(1月) 	「いちょうとふれあいの会」や町内会と入居者の顔合わせ会には多くの入居者が参加し、また、早い段階で半数に近い世帯が町内会入会を希望する等、つながりを求める入居者が多い様子。
	角五郎	H27.10	47	八幡	47世帯中27世帯が町内会(角新会)に加入。	町内会が中心となり支援	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会主催の懇談会を開催。 ・3/29、地区社協主催、社協区事務所・支えあいセンター共催の入居者や地域住民を対象としたウェルカムコンサートとお茶会を開催(164名参加)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・角新会 便利マップ作り委員会による入居者向けマップづくり支援(4月～8月) ・住宅入居者説明会出席(10月) ・ウェルカムコンサート開催支援(11月～2月) ・復興公営住宅交流会出席(12月) 	町内会役員と入居者の懇談会では、まだ入居期間中だったため参加者数は少なかったが、若い夫婦から高齢者まで幅広い年齢層の入居者が参加していた。以前住んでいた住民がコミュニティ入居で戻ってくることもあり、入居者の中にすでにキーパーソンがいる。キーパーソンと町内会が連携をとりながら新しい入居者との関わりも築いていく予定。

区	団地名	入居開始	整備戸数	地区社協	町内会形成等の状況	支援者会議等の状況	H27年度ウェルカムイベント・サロン等の開催状況	H27年度CSWの主な支援活動	H27年度その他現状・課題等
宮城野区	田子西	H26.4	176	高砂	単独町内会「田子西町内会」設立(H27.10.1)	支援者会議を組織(田子西第二と同じ)	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者会議主催のウェルカムイベント他多数。 ・町内会設立後は町内会主催のサロン開催あり。8/21-22 夏祭り。信州そば交流会(10/4)。あっぱれとっぺの助とアコーディオン(11/8)、20世紀アーカイブ仙台「昔を語る会」(11/12、12/10,1/14,2/12) 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者の会開催支援(6月～) ・20世紀アーカイブ仙台主催「昔を語る会」開催に関する調整支援(9月～2月) ・きぼう園主催 住宅内知的障害児ケア会議出席(11月) ・NPO法人にじいろクレヨン 田子西復興公営住宅でのアート活動マッチング相談対応(12月) 	支援者の会に田子西町内会が加入 自治会設立後の活動支援(助成金等) 町内会長より、町内で気になる世帯(高齢世帯、障害世帯)の見守り等について相談あり→2世帯について個別カンファレンス開催(町内会、民生委員、行政、施設担当者参加) 町内会活動を支援する団体を紹介するなど、アドバイス。
	鶴ヶ谷第一	H26.10	28	鶴ヶ谷	既存町内会に加入(H27.2.28ウェルカムイベント時、既存町内会長より加入の案内、イベント終了後、班長選出まで完了)	支援者会議を組織	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者会議主催のウェルカムイベント。地域主催のサロンあり(奇数月)、神戸在住ピアノ演奏ボラ(5/29)、上智大ハンドベル(9/15) ・復興住宅住民等有志で「つるがや畑プロジェクト(仮)」進行中(鶴ヶ谷包括にてコーディネート) 	<ul style="list-style-type: none"> ・鶴ヶ谷わかば会サロン(復興住宅地域の町内会サロン)への神戸慰問ボランティアマッチング調整(4月～5月) ・地区社協内サロン代表者会議出席(9月) ・鶴ヶ谷地域包括支援センター圏域地域福祉関係者による情報交換会出席(9月) ・鶴ヶ谷地区福祉ネットワーク交流会出席(11月) ・「つるがや畑プロジェクト」に関する鶴ヶ谷地域包括支援センターとの連携(11月～) 	住宅の班長・区長が決定。 民児協会長からの相談より、民生委員と班長区長との顔合わせを開催。(4/23) 支援地域主催のサロンにボランティアセンターより情報提供の団体をマッチング 28年4月以降入居予定の鶴ヶ谷第三復興住宅への支援も検討中(既存町内会側は加入することを了解している)
	仙台駅東	H26.12	27	榴岡	既存町内会に加入(既存町内会班長が、27年3月から戸別に町内会加入案内を開始)	支援者会議を組織(宮城野と同じ)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域主催の新旧住民交流会(5/24)。 ・ボランティア主催のサロン開催あり。上智大ハンドベル(9/15)。花と緑のプロジェクト「鉢植え講座」(12/6)。 ・駅東交流Cにてお茶っこサロン(奇数月：地区社協、偶数月：包括主催) 	<ul style="list-style-type: none"> ・榴岡復興公営住宅支援者の会運営支援(前年度から継続) ・住民交流会開催支援等(4月～5月) ・花と緑の力で、プロジェクトみやぎ委員会寄せ植えサロン開催支援(10月～12月) ・支えあいセンター訪問世帯に関して、担当民生委員と支えあいセンターが情報共有する場づくり支援(1月) 	新旧住民が馴染めるようにしていくことが課題。地域主催のサロンに、ボランティアセンターより情報提供の各団体をマッチング 町内会長と民生委員児童委員に定期訪問世帯の情報提供をする。(2世帯)町内の要援護者支援体制について

区	団地名	入居開始	整備戸数	地区社協	町内会形成等の状況	支援者会議等の状況	H27年度ウェルカムイベント・サロン等の開催状況	H27年度CSWの主な支援活動	H27年度その他現状・課題等
宮城野区	幸町第三	H27.4	38	幸町南	既存町内会に加入（H27.6.27ウェルカムイベント時、既存町内会長より加入の案内、班長選出まで完了）	支援者会議を組織	<ul style="list-style-type: none"> 支援者会議主催のウェルカムサロン（6/27）、集会室を利用したサロン開催（1/21）。 NPO（アミューズおひさま）主催のサロン開催（9月、11月） 	<ul style="list-style-type: none"> 支援者の会開催支援等（前年度から継続） ウェルカムイベント開催協力（6月） サロン開催支援等（7月～） 認知症カフェ実行委員会（地区社協・連合町内会・地域包括等が主体）への協力（2月～） 	<ul style="list-style-type: none"> ハッピーカフェ（認知症カフェ）を開催予定（3/4、小松島地域包括・グループホームよもぎ埜と連携、28年度以降、復興住宅集会室を利用し定期開催予定）
	燕沢東	H27.4	63	燕沢	27年11月に自治組織準備会「共栄会」を設立、28年4月に既存町内会に加入の方向性	支援者会議を組織	<ul style="list-style-type: none"> 支援者会議主催のウェルカムサロン（6/28）、敬老を祝う会（9/19） 支援者会議で防災防犯福祉マップ作成 仙台合唱団（ボランティアセンターより情報提供）のうたカフェ開催に向けて、地域で日程調整中（5/17予定） 	<ul style="list-style-type: none"> ウェルカムサロン開催支援（6月） 	
	新田東	H27.4	35	新田	既存町内会に加入（27年8月、自治組織準備会メンバーと既存町内会長、連合町内会長との顔合わせを実施。その際、既存町内会に加入することについて合意）	連町、社協、民児協で連携	<ul style="list-style-type: none"> 住民と地域団体の会長（連町、社協、単位町内会）との顔合わせ会（7/22）。 地域団体連携し防災訓練・交流会を開催（11/8）。 	<ul style="list-style-type: none"> 住民と地域関係者顔合わせ会開催支援（7月） 住宅交流会開催支援等（10月） 防災訓練・懇談会出席（11月） 	<ul style="list-style-type: none"> NPO主催のサロン開催予定（1/25、アミューズおひさま主催）

区	団地名	入居開始	整備戸数	地区社協	町内会形成等の状況	支援者会議等の状況	H27年度ウェルカムイベント・サロン等の開催状況	H27年度CSWの主な支援活動	H27年度その他現状・課題等
宮城野区	燕沢	H27.7	55	東仙台	単独町内会設立（H28.3.27）	支援者会議を組織	<ul style="list-style-type: none"> 生活マップ配布（9/5） 西山小児童からの手紙配布。準備会ができた支援者の会と共催での交流会開催予定。 自治会準備委員より作品展を開催したいと希望あり（12/11の田子西作品展を見学して） 信州そば交流会（2/15、東北・長野教区VCの支援） 福岡県筑紫女子大学の学生による炊き出しボランティア（2/22 予定） 住民交流会を開催予定（2/26-27、作品展同時開催、支援者会議と自治会設立準備会の共催） 	<ul style="list-style-type: none"> サポート委員会開催支援等（5月～） 燕沢市営住宅交流会開催支援（2月） 燕沢市営住宅町内会設立支援（2月） イベント（信州そば交流会、筑紫女学園炊出し「榴岡うまかもん食堂」等）開催支援（2月） 支えあいセンター「みんなの作品展」開催支援（1月～2月） 	<ul style="list-style-type: none"> 既存町内会は、高齢化により支援が難しいとのことで、単独自治会設立の方向だが、少ない世帯数のため、集会室の運営費等で今後課題が出てくることが考えられる。
	田子西第二	H27.7	168	高砂	単独町内会設立（H28.3.27）（名称：田子西こだま町内会）	支援者会議を組織（田子西と同じ）→5月の田子西地区全体の交流会をもって、発展的に解散予定	<ul style="list-style-type: none"> 支援者会議主催のウェルカムサロン（サンマまつり）（9/12） そば打ち（西本願寺支援）（10/4） あっぱとっぺの助とアコーディオン（11/8） NPO法人20世紀アーカイブ仙台「昔を語る会」（11/12～毎月1回、4回シリーズ） 新春交流会（1/23 支援者の会主催） 高砂第一地区民児協主催サロン（2/28、支援者の会共催） ジャズコンサート（3/5、支援者の会、田子西町内会共催） 5/29、田子西地区全体（防災集団移転の自治会含む）での交流会を予定。 	<ul style="list-style-type: none"> 支えあいセンター訪問世帯に関して、地区社協、民児協、田子西町内会と支えあいセンターが情報共有する場づくり支援（7月） 交流イベント等開催支援（8月～） 支えあいセンター「みんなの作品展」開催支援（10月～12月） 自治会設立に関する支援（11月） 西本願寺仙台教区VC主催、おい袋づくりとお茶会イベント開催先マッチング調整（12月） お茶っこサロン開催支援（2月） 	<ul style="list-style-type: none"> 復興住宅に限らず、周辺の防災集団移転の戸建て住宅も含めて支援を行っている。

区	団地名	入居開始	整備戸数	地区社協	町内会形成等の状況	支援者会議等の状況	H27年度ウェルカムイベント・サロン等の開催状況	H27年度CSWの主な支援活動	H27年度その他現状・課題等
宮城野区	宮城野	H27.9	88	榴岡	単独町内会設立の方向性。 (28年4月中旬設立予定)	支援者会議を組織(駅東と同じ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェルカムイベント開催(11/28、楽天 kobo スタジアムドーム。民生委員、福祉委員による訪問で案内)。 ・2/12 歌謡コンサート(演歌歌手 野村未奈さん、長野県上田市の復興支援) ・宮城野復興住宅集会室にて、28年度5、8、11、2月にお茶っこサロンを開催予定 	(※仙台駅東住宅から一部再掲) <ul style="list-style-type: none"> ・榴岡復興公営住宅支援者の会運営支援(前年度から継続) ・支援関係者の住宅訪問活動に関する調整対応(9月) ・住民交流会開催支援等(9月～11月) ・地区社協及び復興公営住宅自治会役員間の関係づくり支援(2月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存町内会がないエリアに建設された復興公営住宅 ・2/12 自治会準備会に地区社協が参加し、社協についての説明や集会室で開催するサロンの日程について協議予定 ・来年度の地域主体の支援活動について支援検討
若林区	若林西	H26.4	152	若林	単独町内会「若林西せせらぎ会」設立 (H26.10.26)	自治会設立前から継続して、CSWが地区社協、地区民児協に働きかけ、地社協区事務所がサロン活動等の運営の手伝い、地区民児協が個別訪問を行う等を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・3/2 おひなさま会&うたっこ会開催 ・3/15 ふれあいコンサート(in 若林小) ・その他、せせらぎサロン月2回開催 	若林西せせらぎ会 活動支援(秋祭り開催・冒険子ども遊び場との連携サロン開催支援等)(前年度から継続)	住宅内で顔の见えない方も参加しやすいように、「脳トレ」の実施を検討中。また、グランドゴルフを行う予定。
	荒井東(第1期)	H26.4	197	七郷	単独町内会「荒井東町内会」設立 (H26.9.28)	自治会設立前から継続して、CSWが地区社協、地区民児協に働きかけ、社協区事務所が復興住宅でのサロン活動等への助成を行い、地区民児協では戸別訪問を行っている。	・3/27 桜の木植樹祭開催	・環境整備(桜の木植樹、七夕飾りつけ作業等)の支援(7月～)	住民同士の交流促進に積極的であった役員が3月いっぱいまで辞めることになり、今後の運営のあり方が心配である。

区	団地名	入居開始	整備戸数	地区社協	町内会形成等の状況	支援者会議等の状況	H27年度ウェルカムイベント・サロン等の開催状況	H27年度CSWの主な支援活動	H27年度その他現状・課題等
若林区	荒井第二	H27.2	34	七郷	伊在町内会に加入決定(11月) * H27.10.27「自治会設立総会」にて加入決定	七郷地区連合町内会が復興住宅の自治会設立後の支援開始としており、CSWは自治会設立後にその自治会、地区社協、地区民児協と連携して交流活動等を促進する。	・3月5日 ウェルカムイベント開催(伊在公会堂)	・支援関係者顔合わせ会参加(5月～6月) ・ウェルカムイベント開催支援(7月)	左記のイベントに住宅からは1名のみ参加であった。月に数回住宅内の集会室は開放されているようであるが、利用者は誰もいないとのこと。30数世帯の小さな住宅であるが、目の前にある荒井小仮設集会所に負ってもらって通っていた一人暮らし高齢者がいたとのことであり、福祉ニーズはあることから、これからの支援のあり方が問題である。
	六丁の目西町	H27.3	115	七郷	六丁の目町内会に加入決定(11月) * H27.11.29「自治会設立総会」にて加入決定	地元企業が支援に積極的	特になし	・コミュニティカフェ立ち上げに関する支援者間(地域・行政・PSC)の連絡調整等(5月～8月) ・花と緑の力でプロジェクトみやぎ委員会 園芸サロン共催(9月～12月) ・支えあいセンター「みんなの作品展」開催支援(10月～12月) ・ウェルカムイベント開催支援(1月)	5月22日に初めての住民交流会が集会所で開催される予定(CSWは出演ボランティアの連絡調整)。また、20世紀アーカイブスから「昔語りサロン」を開催したいという要望あり。
	大和町	H27.4	103	大和	大和五丁目町内会に加入決定(11月) * H27.11.1「自治会設立総会」にて加入決定	支援会議 H27.7.16 立ち上げ(中倉と同じ)	特になし	・大和町復興公営住宅支援会議開催支援(4月～) ・交流イベント(炊き出し交流会等)開催支援(8月・1月)	役員は住民交流活動を進めたがっているが、様々な要因があり、なかなか一歩を踏み出せない状況にある。

区	団地名	入居開始	整備戸数	地区社協	町内会形成等の状況	支援者会議等の状況	H27年度ウェルカムイベント・サロン等の開催状況	H27年度CSWの主な支援活動	H27年度その他現状・課題等
若林区	六丁の目中町	H27.4	43	七郷	六丁の目中町内会に加入決定(11月) * H27.11.15「自治会設立総会」にて加入決定	七郷地区連合町内会が自治会設立後の支援としており、CSWは自治会設立後にその自治会、地区社協、地区民児協と連携して交流活動等を促進する。	特になし	(※六丁の目西町住宅から一部再掲) ・ウェルカムイベント開催支援(1月)	西町に比べ、社協との接点が多い。
	荒井東(第2期)	H27.6	101	七郷	荒井東町内会に加入決定(12月) * H27.9.13, 10.14の入居者顔合わせ会において、荒井東町内会加入についてアンケート実施。78.2%の加入賛成により加入決定。	自治会設立前から継続して、CSWが地区社協、地区民児協に働きかけ、地区社協が復興住宅でのサロン活動等への助成を行い、地区民児協では戸別訪問を行っている。	・3/27 桜の木植樹祭開催	・サロン開催支援(5月～) ・環境整備(桜の木植樹、七夕飾りつけ作業等)の支援(7月～)	少しずつではあるが、集会所でのイベントに参加する人が増えてきている状況にある。
	中倉	H27.7	58	大和	大和中倉町内会に加入決定(12月) * H27.12.20自治会設立総会にて加入決定	支援者会議 H27.7.16 立ち上げ (大和町と同じ)	・2/28 中倉町内会主催ふれあいコンサート開催	・ペット棟 ペットの会設立支援(8月) ・復興住宅内 情報交換会出席(10月) ・大和中倉町内会ふれあいコンサート(復興公営住宅支援目的)開催支援(12月～1月)	3/26に集会室にて住民同士の交流会を開催した模様。役員は顔の見える関係づくりに積極的であり、今後が期待できる。

区	団地名	入居開始	整備戸数	地区社協	町内会形成等の状況	支援者会議等の状況	H27年度ウェルカムイベント・サロン等の開催状況	H27年度 CSW の主な支援活動	H27年度その他現状・課題等
太白区	芦の口	H26.4	39	西多賀	既存の町内会に加入（既存町内会が入居者宅を戸別にまわり加入案内）28.4には3班構成にする予定	支援者連絡会議を組織	<ul style="list-style-type: none"> 支援者会議主催のウェルカムイベント(6/13) 地域と住民協働での草取り等交流(7/12) 	<ul style="list-style-type: none"> 支援者連絡会議開催支援(前年度から継続) 地区社協主催被災者サロン開催支援等(4月～10月) 住宅敷地内草刈り支援(7月) 住宅内 ペットの会設立支援(9月) 	入居者住民懇談会を開催(8/30)
	鹿野	H26.7	70	鹿野	既存町内会に加入（入居世帯の総会にて27.4の加入を決定）	支援者連絡会議を組織	<ul style="list-style-type: none"> 支援者会議と世話人会合同交流会(7/15) 残暑祭り(9/5) 長町包括主催介護予防教室(9月～4回) 長町包括と家庭健康主催健康教室(12月～4回)終了後、世話人会中心で自主活動化へ(28.4～) 世話人会主体でのクリスマス交流会(12/19) 	<ul style="list-style-type: none"> 支援者連絡会開催支援(前年度から継続) 住宅内コミュニティづくりの支援相談対応(6月、10月) 住宅内騒音問題相談対応(6月) イベント(クリスマス会等)開催支援(9月～) 	<ul style="list-style-type: none"> 世話人会の活動が活発 世話人会が中心となって県の被災者関連助成金を活用(交流会の開催、環境整備等) 地区の取り組みがNHKの番組や他市町村の研修会で取りあげられた。
	あすと長町	H27.4	163	郡山	世話人会設立済(27.10)28.3.27単独自治会設立	支援者連絡会を組織（あすと長町第三支援者連絡会と同一組織）	<ul style="list-style-type: none"> 支援者会議主催の交流会(6/7) 支援者連絡会主催フロア別住民懇談会(9/14～18) 支援者連絡会主催サロン「カフェあすと」(10月～) 郡山包括主催介護予防教室(11月～4回) 家庭健康課主催いきいき運動教室(12月～4回) 	<ul style="list-style-type: none"> 左記に関する対応支援(前年度から継続) 住宅世話人代表者会・拡大世話人会開催支援等(9月～) 	<ul style="list-style-type: none"> 世話人代表者会役員会(毎週)、世話人代表者会(隔週、支援者連絡会が参加するものは適宜)、世話人会(適宜)など協議が活発 世話人会主催で清掃活動実施 ひより台3町内会より備品寄贈あり 平成27年度町内会育成奨励金申請済
	あすと長町第二	H27.4	96	長町	世話人会設立済(27.9)28.4.17単独自治会設立予定	支援者連絡会を組織	<ul style="list-style-type: none"> 支援者会議主催の顔合わせ交流会(6/28) 七夕飾りづくり(7/13,29) 支援者連絡会と世話人会主催の第2回交流会(10/4) アーカイブ仙台主催サロン(12/15～4回) 長町包括主催介護予防教室(1月に3回) 	<ul style="list-style-type: none"> 左記に関する対応支援(前年度から継続) 入居者・支援者懇談会・フロア懇談会・ひな飾りイベント開催支援等(4月～) 住宅拡大世話人会開催支援等(9月～) 長町まちづくり市民協議会の備品贈呈式開催支援(12月) 	<ul style="list-style-type: none"> 世話人会(毎週)、拡大世話人会(適宜)などの協議が活発 長町まちづくり市民協議会より備品寄贈あり 世話人会主催で清掃活動

区	団地名	入居開始	整備戸数	地区社協	町内会形成等の状況	支援者会議等の状況	H27年度ウェルカムイベント・サロン等の開催状況	H27年度CSWの主な支援活動	H27年度その他現状・課題等
太白区	あすと長町第三	H27.4	68	郡山	世話人会設立済 (27.12) 28.4.3 単独自治会設立	支援者連絡会を組織 (あすと長町支援者連絡会と同一組織)	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者会主催の交流会(5/31) ・支援者連絡会とペットの会共催でフロア別住民懇談会(11/25、26、27) ・支援者連絡会主催サロン「お茶っこ会」(10月～) ・郡山包括主催介護予防教室(11月～4回) ・家庭健康課の運動サポーターによる自主グループ活動(28.2～) 	(※あすと長町第一住宅から一部再掲) <ul style="list-style-type: none"> ・左記に関する対応支援(前年度から継続) ・住宅世話人代表者会・拡大世話人会開催支援等(9月～) ・ペット管理組合運営支援(9月～) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペット管理組合設立(9/19) ・ペット管理組合主催で毎月清掃活動 ・平成27年度町内会育成奨励金申請済
	茂庭第二	H28.4 予定	100	茂庭台		H28.1.27 支援者連絡会設立	<ul style="list-style-type: none"> ・28.4 ウェルカムマップ完成予定 ・28.4 地域団体関係者集会所内覧 ・28.4.下旬～戸別訪問予定 ・28.5.22 交流会予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者連絡会開催支援(12月～) ・支援者研修会開催支援(2月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・入居状況の把握方法の検討 ・支援者ネットワークの方向性の確認
泉	泉中央南	H27.4	193	上谷刈	単独町内会「泉中央南町内会」設立(H27.12.5)	支援連絡会あり (区まちづくり推進課等主催)	<ul style="list-style-type: none"> ・区事務所、地区社協、地区民児協主催「サロン」(6/8、7/30、9/15、10/15)。民生委員、地域のボランティア、入居者の協力あり。 ・寺岡地区社協主催「芋煮会」(10/22)。 ・虹の丘地域包括支援センター主催「介護予防教室」(10～3月、月1回の開催)。 ・家庭健康課主催「レッツウォーキング」(11/6)、「親子交流会」(12/11)、まちづくり推進課主催「うたごえカフェ」(10月～、月1回)。 ・市民センター主催「出前講座」。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者支援連絡会参加(前年度から継続) ・地域情報マップ作成支援(4月) ・交流サロン等開催支援(6月～) ・寺岡地区主催の仮設住宅入居者支援芋煮会の開催相談(6月) ・上谷刈地区子育て支援連絡会出席(8月) ・泉中央南町内会(＝復興公営住宅自治会)設立に関する支援(意見交換会・設立準備委員会・総会出席等)(8月～12月) ・区家庭健康課主催「ウォーキングイベント」「親子交流会」等参加(11月～12月) ・区障害高齢化主催 泉中央復興公営住宅を含む地域支援関係機関打合せ出席(11月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・体調不良で救急車出動要請が増えている。また、認知症で徘徊される方も見られる。 ・住民同士の見守りの体制づくりが課題。

2. CSWの支援活動に係る本会の主催事業

区・支部事務所に配置したCSWの活動に関する調整・支援として、CSWに必要なスキル習得のための研修の実施や担当者の課題、情報や支援ノウハウ等を共有する機会を設けて、活動の標準化に取り組んだ。また区・支部事務所では、支援関係者との連携・協働体制を深めるためのネットワークづくりや関係者同士の会合や研修会の開催など、地域の状況に応じた活動を展開した。

(1) CSWの活動に関する支援

①CSW実践者研修会（生活支援コーディネーター研修会）

CSWのスキルの向上や本会内の他部署との連携を図るため、年5回の研修会を実施した。平成27年度は、地域包括ケアシステムに係る生活支援コーディネーターとの関わりを重視し、仙台市地域包括支援センター連絡協議会と共催により「生活支援コーディネーター研修会」を開催する形でCSWの研修機会とした。

〔第1回〕

- ・日時：平成27年5月23日(土) 9:30~12:30
- ・講師：日本社会事業大学 社会福学部福祉計画学科 准教授 菱沼 幹男 氏
- ・対象：区・支部事務所CSW、市内生活支援コーディネーター等 合計71名
- ・内容：講義：「地域包括ケアシステムと生活支援コーディネーターの役割」
グループワーク：「社会資源開発の視点と方法」

〔第2回〕

- ・日時：平成27年7月14日(火) 13:30~17:00
- ・講師：東北福祉大学 総合福祉学部社会福祉学科 講師 村山 くみ 氏
- ・対象：区・支部事務所CSW、市内生活支援コーディネーター等 合計77名
- ・内容：講義：「地域調査の手法や分析、分類等について」
演習：「調査票を作成してみよう」 他

〔第3回〕

- ・日時：平成27年10月10日(土) 9:30~15:55
(所属区により時間を区切り開催、各回65分~95分)
- ・講師：日本社会事業大学 社会福学部福祉計画学科 准教授 菱沼 幹男 氏
- ・対象：区・支部事務所CSW、市内生活支援コーディネーター等 合計38名
- ・内容：ディスカッション：「各地域包括支援センターからの報告」
「フリーディスカッション」 他

〔第 4 回〕

- ・日時：平成 27 年 11 月 6 日(金) 13：30～16：30
- ・講師：日本社会事業大学 社会福学部福祉計画学科 准教授 菱沼 幹男 氏
- ・対象：区・支部事務所 C S W、市内生活支援コーディネーター等 合計 62 名
- ・内容：報告：「第 3 回生活支援コーディネーター研修会まとめ報告」
グループワーク：「地域アセスメントの実施状況について情報共有」 他

〔第 5 回〕

- ・日時：平成 28 年 2 月 9 日(火) 13：30～16：30
- ・講師：日本社会事業大学 社会福学部福祉計画学科 准教授 菱沼 幹男 氏
- ・対象：区・支部事務所 C S W、市内生活支援コーディネーター等 合計 51 名
- ・内容：講義：「住民とともに進める地域包括ケアシステムの推進」
グループディスカッション：「1 年間の取り組み状況と課題など」

② C S W 担当者連絡会等

C S W 同士の事例検討や情報交換等を行うため、C S W 担当者連絡会、地域福祉担当者会議を開催した。

〔C S W 担当者連絡会（年 4 回開催）〕

- ・開催日：平成 27 年 4 月 9 日、8 月 27 日、12 月 17 日、平成 28 年 2 月 18 日
- ・対 象：区・支部事務所 C S W、本会受託地域包括支援センター職員 他
- ・主な内容：情報交換：「地域等への支援の状況等について」
事例検討：「復興公営住宅における住民主体による見守り活動の仕組みづくり」 他

〔地域福祉担当者会議（年 2 回開催）〕

- ・開催日：平成 27 年 7 月 7 日、7 月 13 日
- ・対 象：区・支部事務所 所長代理（兼統括 C S W）
- ・主な内容：生活支援コーディネーター事業との連携に関する意見交換 等区・支部事務所に配置した C S W の活動に関する調整・支援として、スキル向上や課題・情報共有の場づくりなどに努めた。また区・支部事務所では、支援関係者との連携・協働体制を深めるための事業や、関係者同士の会合や研修会を開催するなど地域の状況に応じた活動を展開した。

(2) 地域住民・関係団体に向けた区・支部事務所の主な主催事業

①地域福祉推進に関する事業

- ・地域活動推進委員会
- ・区社会福祉協議会（正副会長会・協議会・幹事会）
- ・理事・監事・評議員情報交換会

②地区社協の活動強化に関する事業

- ・地区社協会長との連絡会
- ・地域福祉活動推進員連絡会
- ・小地域福祉ネットワーク活動研修会
- ・インターネットを活用した情報発信研修会
- ・地区社協研修会
- ・地区社協が行う専門的研修への講師派遣事業
- ・地区社協会長・地域福祉活動推進員合同会議
- ・地区社協会長・推進員合同研修会

③地域福祉活動の人材育成に関する事業

- ・地域福祉活動リーダー研修会
- ・福祉委員研修会
- ・社協サロン運営者研修会
- ・はじめてのボランティア講座
- ・シニアボランティア入門講座

④ネットワーク形成に関する事業

- ・地域別ネットワーク会議
- ・区内 5 団体地域福祉研修会
- ・区内地域福祉関係団体等研修会・懇談会
- ・地域福祉団体懇談会
- ・復興公営住宅建設地域における支援者連絡会・準備会
- ・復興の輪ミーティング

⑤市民への広報・啓発に関する事業

- ・福祉出前講座
- ・地域福祉公開講座
- ・地域福祉講座

3. CSWの支援活動に係る主な連携相手

CSW は、地域住民や関係者のネットワークによる福祉的課題の解決やより良い地域社会づくりに向けた活動を支援する立場から、地域福祉の推進に関わる様々な団体・組織と連携しながら活動を進めている。平成27年度においては、主に以下の連携相手との協働しながら活動に取り組んだ。

〔主な連携相手〕 順不同

行政・相談支援機関	相談支援機関・福祉施設	地域福祉活動団体	自治組織
宮城復興局 仙台市 生活再建推進室 社会課 介護予防推進室 各区・総合支所 まちづくり推進課 区民生活課 保健福祉センター 家庭健康課 障害高齢課 保護課	地域包括支援センター 障害福祉サービス事業所 グループホーム 生活困窮者支援 NPO 等 市ボランティアセンター	地区社協 民生委員児童委員協議会	町内会・自治会 復興公営住宅世話人会 自治会準備会
ボランティア市民活動等	NPO・企業・公益法人	教育機関	その他
吹奏楽団・合唱団 すずめ踊り団体 ボランティア団体	子ども支援団体 災害・被災者支援団体 環境活動団体 福祉・まちづくり活動団体 公益財団法人 印刷・出版事業者 ライオンズクラブ	学校・教育機関（小・中学校、高校、大学） 市民センター 大学研究室 大学サークル	他市社会福祉協議会 商店街

4. 相談・活動・支援内容の集計結果

(1) 相談・活動件数

(単位:件)

	平成 25 年度 合 計	平成 26 年度 合 計	平成 27 年度 合 計	前年度比(%)
相談件数	1,450	958	890	92.9%
活動件数	2,629	2,745	4,341	158.1%
合計	4,079	3,703	5,231	141.2%

前年度と比較し、相談件数は減った一方、活動件数が約 1.6 倍となっている。これらの理由として、ひとつは重点支援地区とした復興公営住宅建設地域が増加したこと、もうひとつは C S W が業務を遂行するにあたって基本事項とした「地域に出向き、地域の担い手と信頼関係を築きながら、地域の福祉課題を把握する」ことが、事業開始後 3 年間の中で着実に定着してきたことが挙げられる。地域で行われている取り組みや協議の場において、C S W が直接話を聞き、課題を共有することで、ニーズキャッチから活動まで、円滑な支援へとつながっていることがわかる。

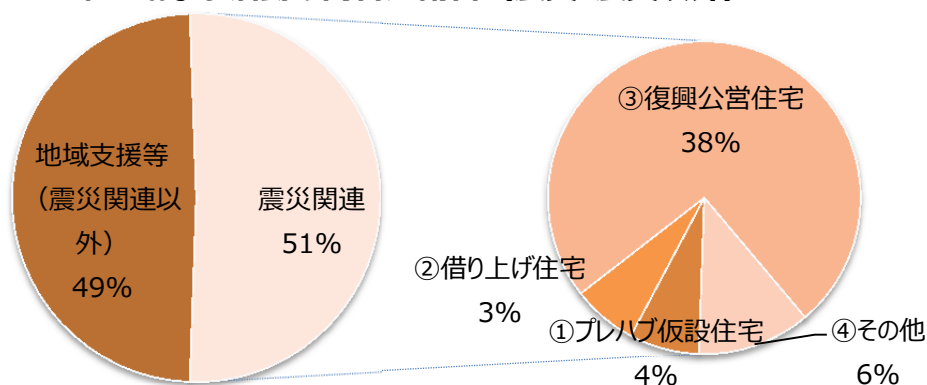
※「活動」とは、相談を受けたのちに C S W が解決に向け行う調整や支援、及び C S W 自らが地域に働きかける行動のこと。

〔相談・活動件数の内訳〕

(単位:件)

		平成 25 年度 合 計	平成 26 年度 合 計	平成 27 年度 合 計	前年度比(%)
1	地域支援等 (震災関連以外)	2,457	1,973	2,557	129.6%
2	震災関連	1,622	1,730	2,674	154.6%
	内 ①プレハブ仮設住宅	216	113	193	170.8%
	②借り上げ住宅	432	220	180	81.8%
	③復興公営住宅	456	1,186	1988	167.6%
	④その他	518	211	313	148.3%
合 計		4,079	3,703	5,231	141.3%

相談および活動の内容別割合（震災・震災以外）



相談及び活動について内容別にみると、従来からの小地域福祉ネットワーク活動を通じた「地域支援等」と「震災関連」とも件数が増加している。中でも、復興公営住宅に関する件数が、昨年度より、約 800 件増加しており、仙台市の復興計画の最終年度として、復興公営住宅の建設および入居が多く地域で進んだことと併せ、支援者のネットワークづくり、活動の支援、さらには入居後の地域への継続的な関わりなど、C S W が活発に活動したことがわかる。

なお、プレハブ仮設住宅に関する件数の増加は、若林区で顕著であり、入居者の転居・減少などに伴うサロン等の交流会の開催支援などが行われた。

(2) 相談内容

① 相談者の内訳

(単位:件)

		平成 25 年度 合 計	平成 26 年度 合 計	平成 27 年度 合 計	平成 27 年度に 占める割合(%)
1	本人	97	52	51	5.7%
2	親族	11	12	15	1.7%
3	近隣住民・知人	5	10	14	1.6%
4	町内会役員	191	127	119	13.4%
5	民生委員児童委員	101	65	77	8.7%
6	地区社協役員・福祉委員	609	469	297	33.4%
7	福祉施設・事業所・相談機関	40	45	53	6.0%
8	区役所	76	17	35	3.9%
9	公的機関(区役所を除く)	35	23	43	4.8%
10	NPO・ボランティア団体	130	85	111	12.5%
11	当事者団体	34	7	10	1.1%
12	その他	119	45	65	7.3%
合 計		1,450	958	890	100.0%

相談者は「地区社協」「町内会役員」「NPO・ボランティア」「民生委員児童委員」の順に多く、全体の 7 割弱を占めている。また、「福祉施設・事業所・相談機関」および「公的機関（区役所以外）」からの相談が緩やかに増加している。これらは、C S W と関係機関が協働した取り組みを重ねてきた結果、双方で相談しやすい関係につながったことが大きな要因と考えられ、中でも地域包括支援センターとの相談が増加している。その他には、大学や企業、他市社会福祉協議会からの相談が含まれている。

※「相談者」とは、電話や来訪等にて C S W に相談をした人や団体等のこと。

②相談対象の内訳

(単位:件)

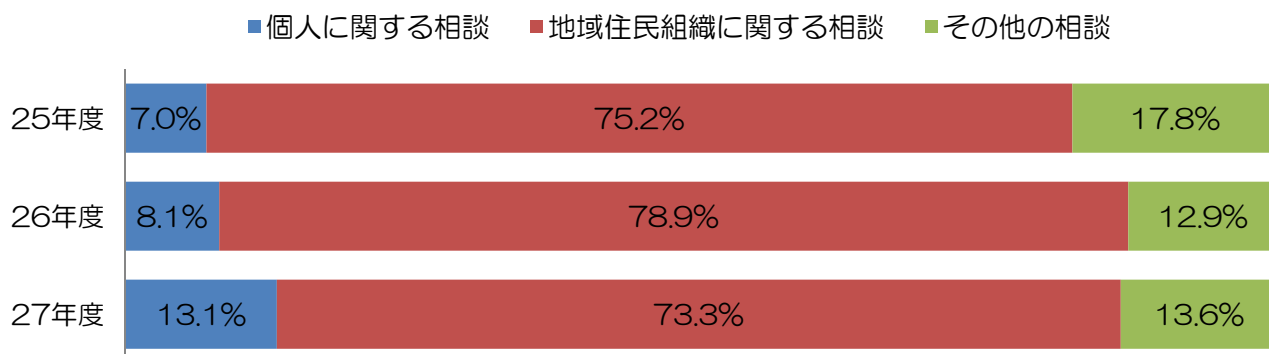
		平成 25 年度 合 計	平成 26 年度 合 計	平成 27 年度 合 計	平成 27 年度に 占める割合(%)
個人	1 一人暮らしの高齢者	37	36	39	4.4%
	2 高齢者のみ世帯	17	6	17	1.9%
	3 その他の高齢者	16	11	22	2.5%
	4 身体障害者	8	5	9	1.0%
	5 知的障害者	5	1	7	0.8%
	6 精神障害者	15	12	16	1.8%
	7 子育て家庭	0	2	3	0.3%
	8 ひとり親家庭	4	5	4	0.4%
地域住民組織	9 地区社協	647	490	336	37.8%
	10 地区民児協	46	23	18	2.0%
	11 町内会・自治会	231	158	242	27.2%
	12 NPO・ボランティア団体	128	72	43	4.8%
	13 当事者団体	38	13	13	1.5%
	14 その他	258	124	121	13.6%
	合 計	1,450	958	890	100.0%

「地区社協」が 242 件・37.8%、次いで「町内会・自治会」が 242 件・27.2%が多く、全体の 6 割超となっている。小地域福祉ネットワーク活動を担う地区社協についての相談の他、復興公営住宅における見守り・支え合い活動の体制づくりにおいて、重要な役割を担う町内会や自治会に対する相談支援が多いことは、本会 CSW 活動の重点的な取り組みと呼応するところである。また、個人に関する相談の内訳は、高齢者に関わる内容が引き続き多くみられている。

※「相談対象」とは、寄せられた相談が、どのような対象（誰）についてのものかを分類したもの。

※上記の内訳表の内、項目 1～8 を「個人に関する相談」、項目 9～13 を「地域住民組織に関する相談」と見なす。

相談対象の割合（個人・地域住民組織）



③ 相談内容の内訳

(単位:件)

		平成 25 年度 合 計	平成 26 年度 合 計	平成 27 年度 合 計	平成 27 年度に 占める割合(%)
個 別 課 題	1 介護保険制度	5	2	14	1.6%
	2 障害者支援制度	2	2	8	0.9%
	3 子育て・DV・家族・引きこもり	7	6	7	0.8%
	4 生活保護・貸付	9	10	9	1.0%
	5 財産管理・消費者問題	5	2	3	0.3%
	6 健康・医療・施設入所	8	4	7	0.8%
	7 身の回りの世話	10	12	15	1.7%
	8 就労	0	3	0	0.0%
	9 近隣トラブル	14	8	9	1.0%
	10 住宅	5	10	7	0.8%
	11 複合世帯	0	2	0	0.0%
組 織 及 び 活 動 の 相 談	12 団体運営	98	52	55	6.2%
	13 人材	24	26	24	2.7%
	14 活動資金・助成金申請	264	193	138	15.5%
	15 見守り・安否確認活動	21	33	24	2.7%
	16 サロン活動	198	138	210	23.6%
	17 日常生活支援活動	13	19	15	1.7%
	18 情報発信・広報紙作成等	52	31	31	3.5%
	19 情報収集	74	60	61	6.9%
	20 研修会	126	100	70	7.9%
	21 災害時要援護者支援体制づくり	48	33	10	1.1%
	22 その他	467	212	173	19.4%
	合 計	1,450	958	890	100.0%

昨年度「活動資金・助成金申請」が最も多かったが、今年度は「サロン活動」に対する相談が 210 件・23.6%で最も多くなっている。地域の福祉関係団体がネットワークを形成し、協働して支援活動を展開する上で、活動資金の獲得や情報提供等を行っており、引き続きこれらの相談も多いものの、復興公営住宅における支え合い体制づくりにおいて、住民自らが活動の担い手となっていく過程として、交流の場づくりとしてのサロン活動を実施する例などもあり、相談が増えている。

なお、実際に寄せられた相談は複合的な課題を抱えていることも多く、単一の項目に分類し難い場合は、「その他」の項目に計上している。

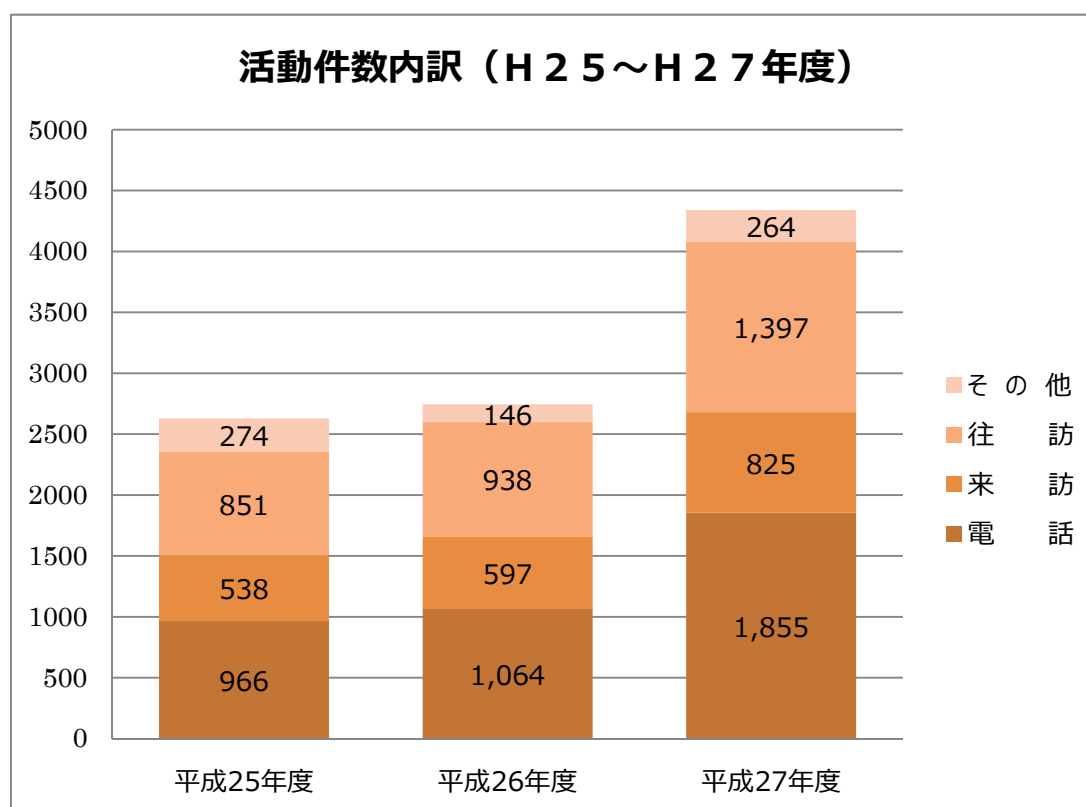
(3) 活動手法

(単位:件)

		平成 25 年度 合 計	平成 26 年度 合 計	平成 27 年度 合 計	平成 27 年度に 占める割合(%)
1	電 話	966	1,064	1,855	42.7%
2	来 訪	538	597	825	19.0%
3	往 訪	851	938	1,397	32.2%
4	そ の 他	274	146	264	6.1%
合 計		2,629	2,745	4,341	100.0%

前述のとおり、C S W のアウトリーチによる課題把握、様々な主体との連絡調整、連携など、業務遂行における基本的な姿勢が定着してきた中で、活動が活発に行われ、活動数全体の増加につながっている。特に、「往訪」が増えていることは、実際に地域における会合、関係者間の話し合いの場、行事等へ出かけていき、多様な主体と顔を合わせる中での課題把握につながっており、より適時の支援を可能としている。

「その他」の項目は、電子メールによるやり取りや、行事の機会を活かして関係者と情報交換を行ったことなどを含んでいる。



(4) 支援内容

(単位:件)

		平成 25 年度 合 計	平成 26 年度 合 計	平成 27 年度 合 計	平成 26 年度に 占める割合(%)
1	小地域福祉ネットワーク活動への コーディネート件数	8	8	8	0.7%
2	NPO・ボランティア団体等への コーディネート件数	13	11	4	0.4%
3	公的サービス・専門機関への コーディネート件数	26	18	10	0.9%
4	ネットワーク会議・ケア会議等 主催件数	31	25	37	3.3%
5	ネットワーク会議・ケア会議等 参加件数	29	82	152	13.6%
6	住民座談会・研修会主催件数	20	9	20	1.8%
7	住民の組織化・ボランティア 団体等の立ち上げ支援	7	3	15	1.3%
8	見守り活動の支援	13	8	16	1.4%
9	日常生活支援活動の支援	4	4	6	0.5%
10	サロン活動の立ち上げ・開催支援	83	74	120	10.8%
11	地域福祉の担い手育成支援	57	41	42	3.8%
12	助成金申請の支援	98	86	56	5.0%
13	情報提供	456	363	408	36.6%
14	情報発信支援	96	48	79	7.1%
15	その他	293	88	141	12.7%
合 計		1,234	868	1,114	100.0%

「情報提供」が 408 件・36.6%、次いで「ネットワーク会議・ケア会議等参加件数」が 152 件・13.6%、「サロン活動の立ち上げ・開催支援」が 120 件・10.8%となっており、C S W が地域の活動主体が疑問や課題を抱えた際の相談先としての役割をなっていることがわかる。このことは、地域の活動主体から見れば、困った時に気軽に相談し、必要な情報を伝えてくれる相手が必要としていることが伺える。

また昨年度からの大きな特徴として、「ネットワーク会議・ケア会議等参加件数」が増えていることが挙げられる。C S W が多様な支援者間のネットワークづくりや連携を意識しながら活動を展開したことがわかる。

※「支援内容」とは、受けた相談や実施した活動がどのような支援に結び付いたかを示すもの。

平成 27 年度コミュニティソーシャルワーカー活動報告書

発行 社会福祉法人仙台市社会福祉協議会

〒980-0022 仙台市青葉区五橋 2-12-2 仙台市福祉プラザ 6 階

電話：022-223-2026（地域福祉課地域福祉係直通） FAX 022-262-1948